

# 田を分かつイエ

芝浦工業大学

上柳翔汰 / 角田耀

01 空き家改修プロジェクトについて

02 対象物件の現状調査とインタビュー

03 設計提案

空き家改修プロジェクトについて

## 活動地域

これまでで**9**県**11**地域



- 静岡県東伊豆町（東伊豆設計室）
- 徳島県那賀郡那賀町（木沢設計室）
- 神奈川県相模原市（相模原設計室）
- 神奈川県足柄下群真鶴町（真鶴設計室）
- 神奈川県足柄上群上開成町（開成設計室）
- 群馬県みなかみ町（みなかみ設計室）
- 新潟県佐渡市（佐渡設計室）
- 三重県鳥羽市（鳥羽設計室）
- 富山県氷見市（プロジェクト設計室）
- 神奈川県三浦市（プロジェクト設計室）
- 栃木県前橋市（前橋設計室）



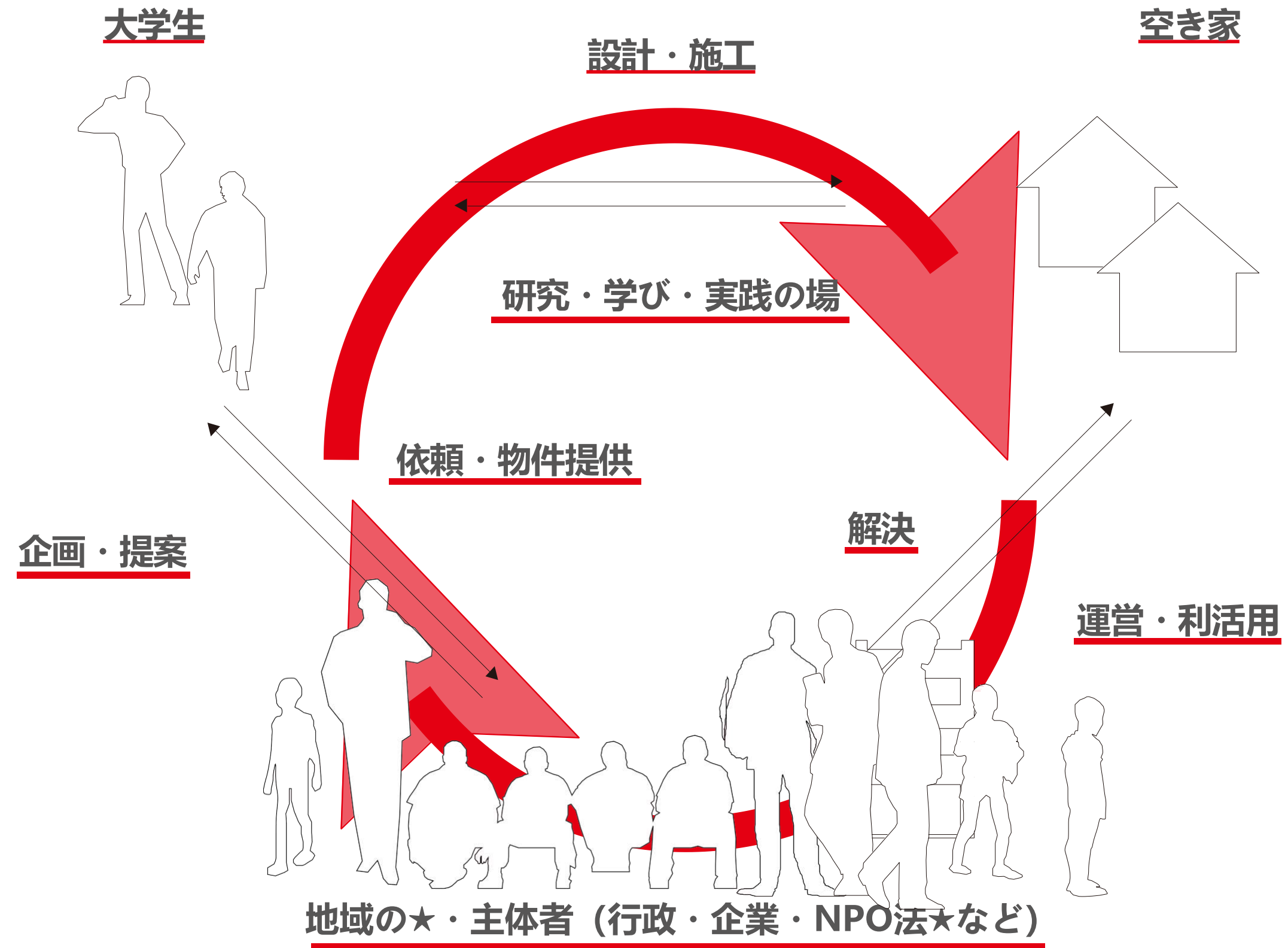
# 地域活性化に協力したい

空き家の改修を通じた地域の活性化

# 自分たちの力で施工がしたい

解体・設計・施工をすべて自分たちの手で

# プロジェクトの全体像





神奈川県足柄下郡真鶴町

駄菓子屋ウオキヨ













空き家を改修していく全ての過程を通して、

地域を巻き込み、活性化に繋げる。

対象物件の現状調査とインタビュー

# 八丈島の魅力

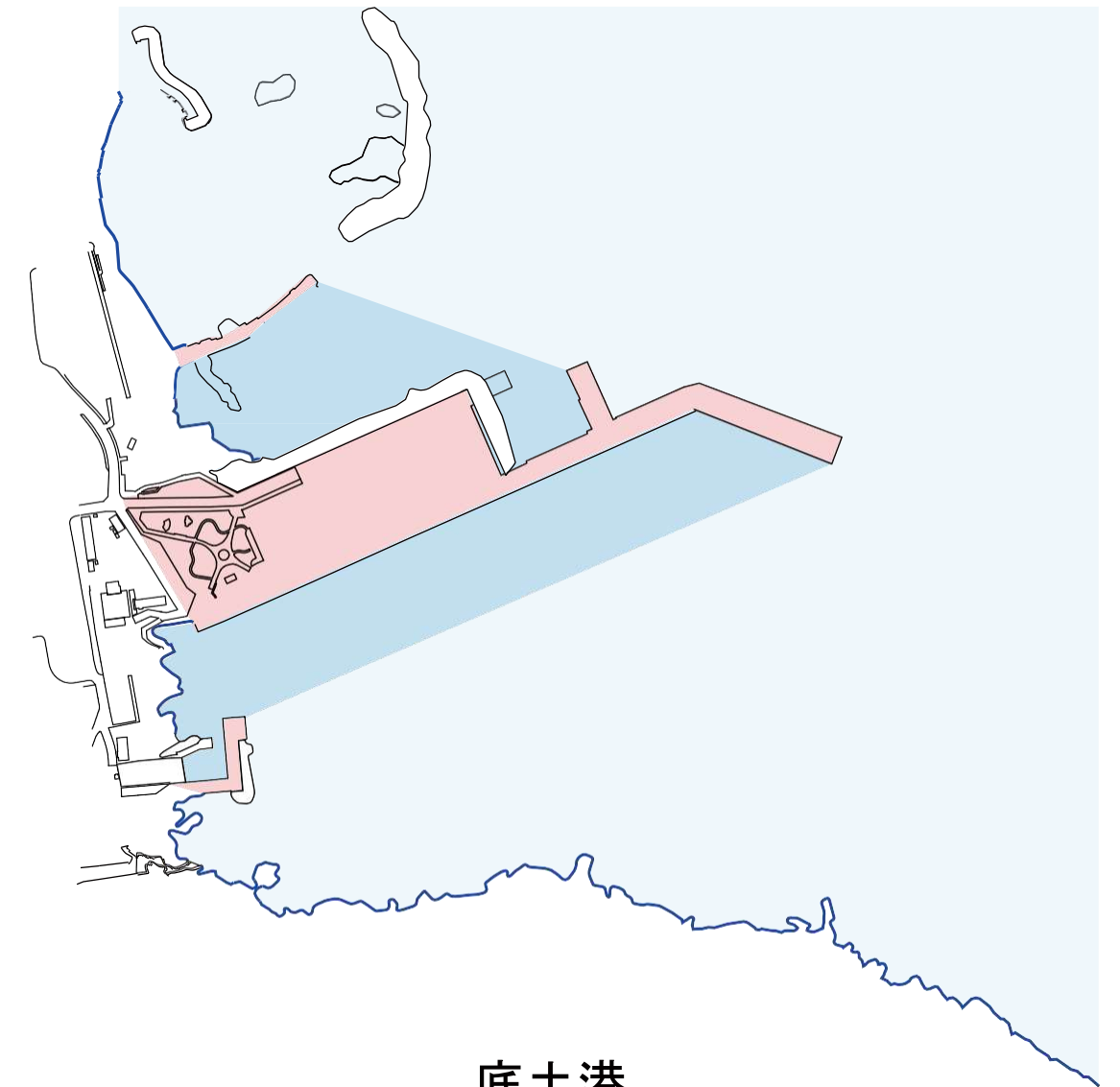
## 港

港は、海という自然の力と人間の営みがせめぎ合う接点に築かれてきた。

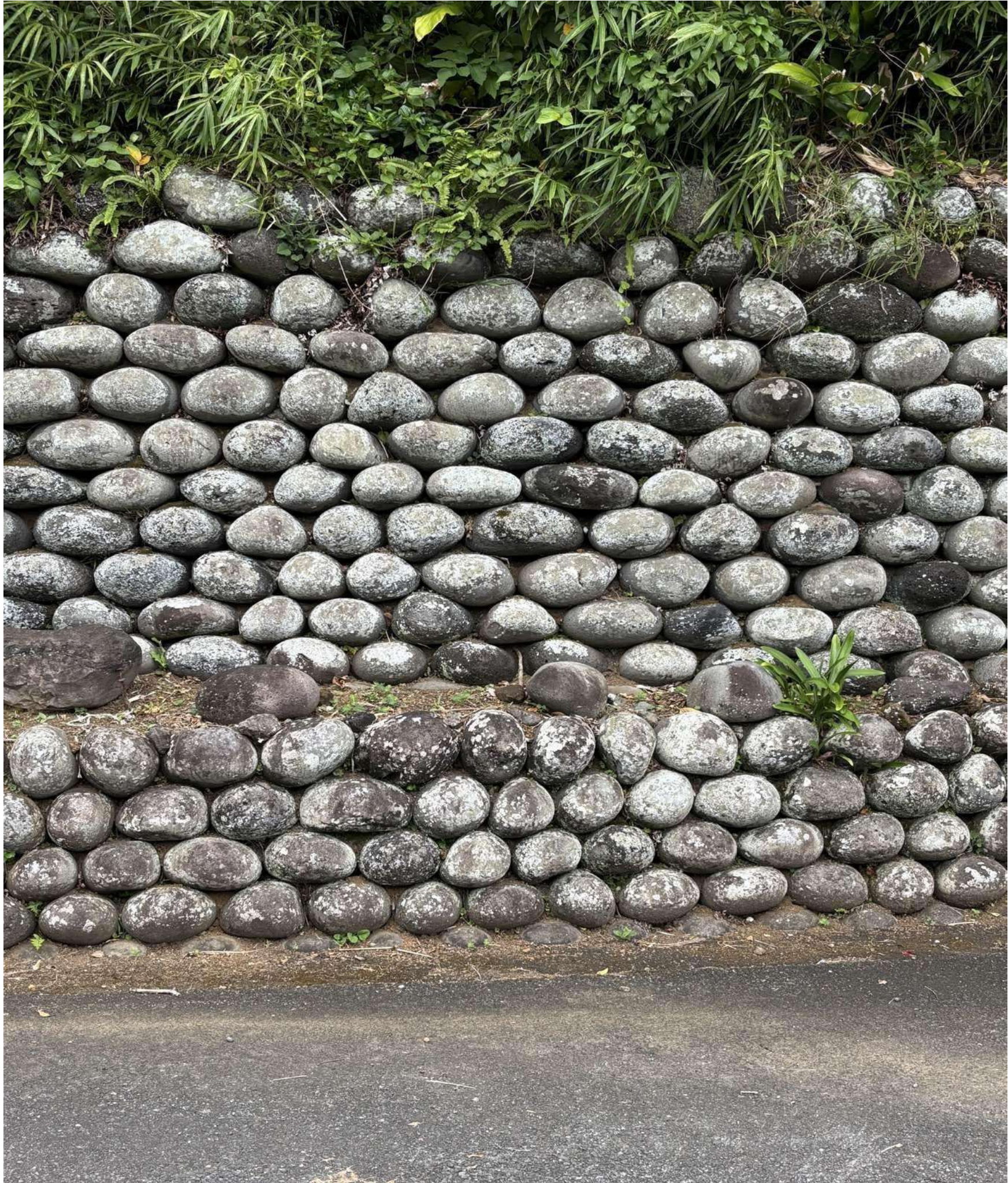
港は波や風を防ぐための人工的な構築物でありながら、同時に人々が海へと近づき、眺め、働き、憩うための場所でもある。その形

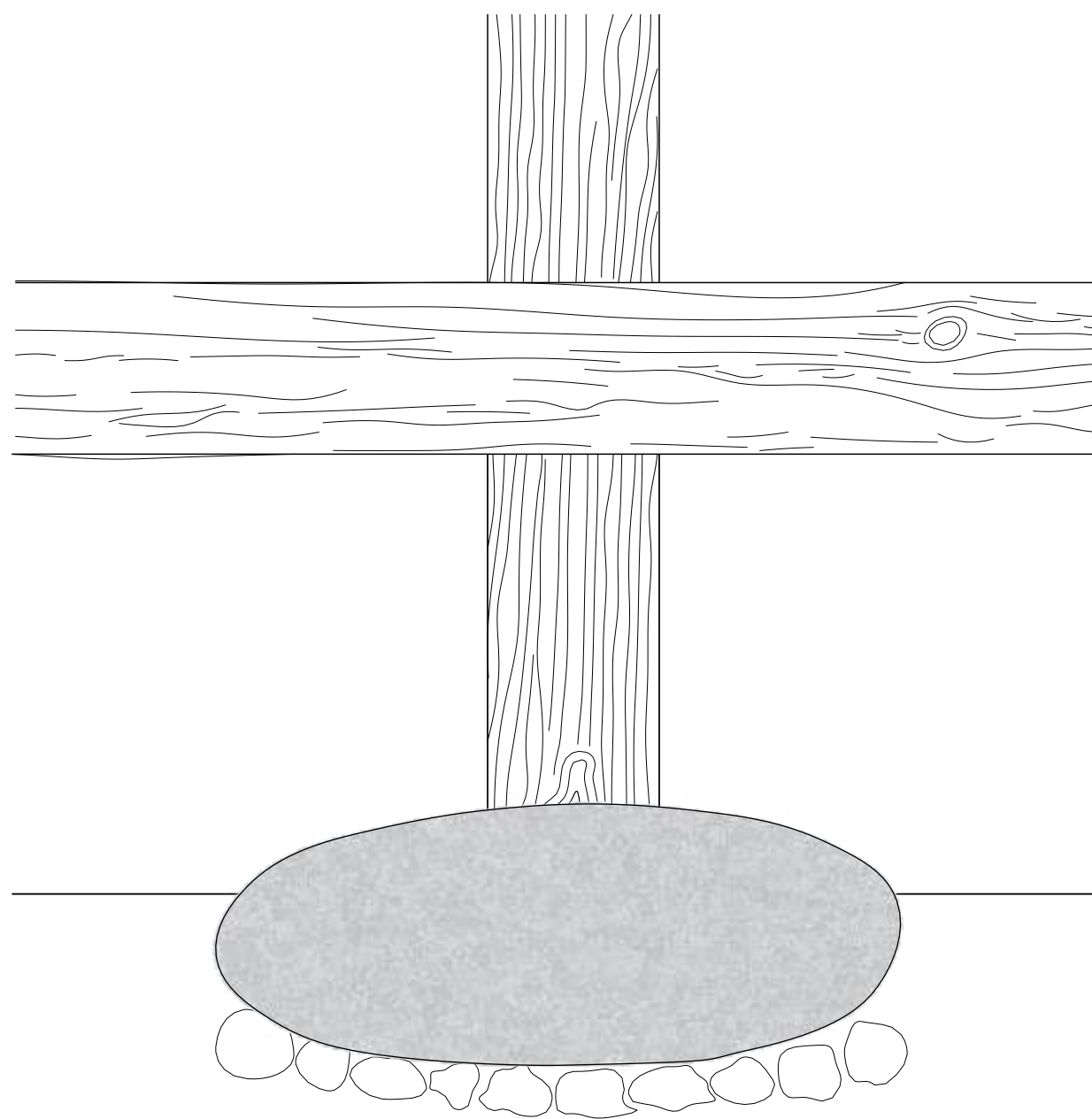
や配置は、自然環境に対する人間の応答であり、地形や潮流、風向きといった条件に合わせて調整されてきた。

港は、自然を制御するだけでなく、受け入れ、寄り添うことで成立する、人と自然の関係のかたちを象徴している。



底土港

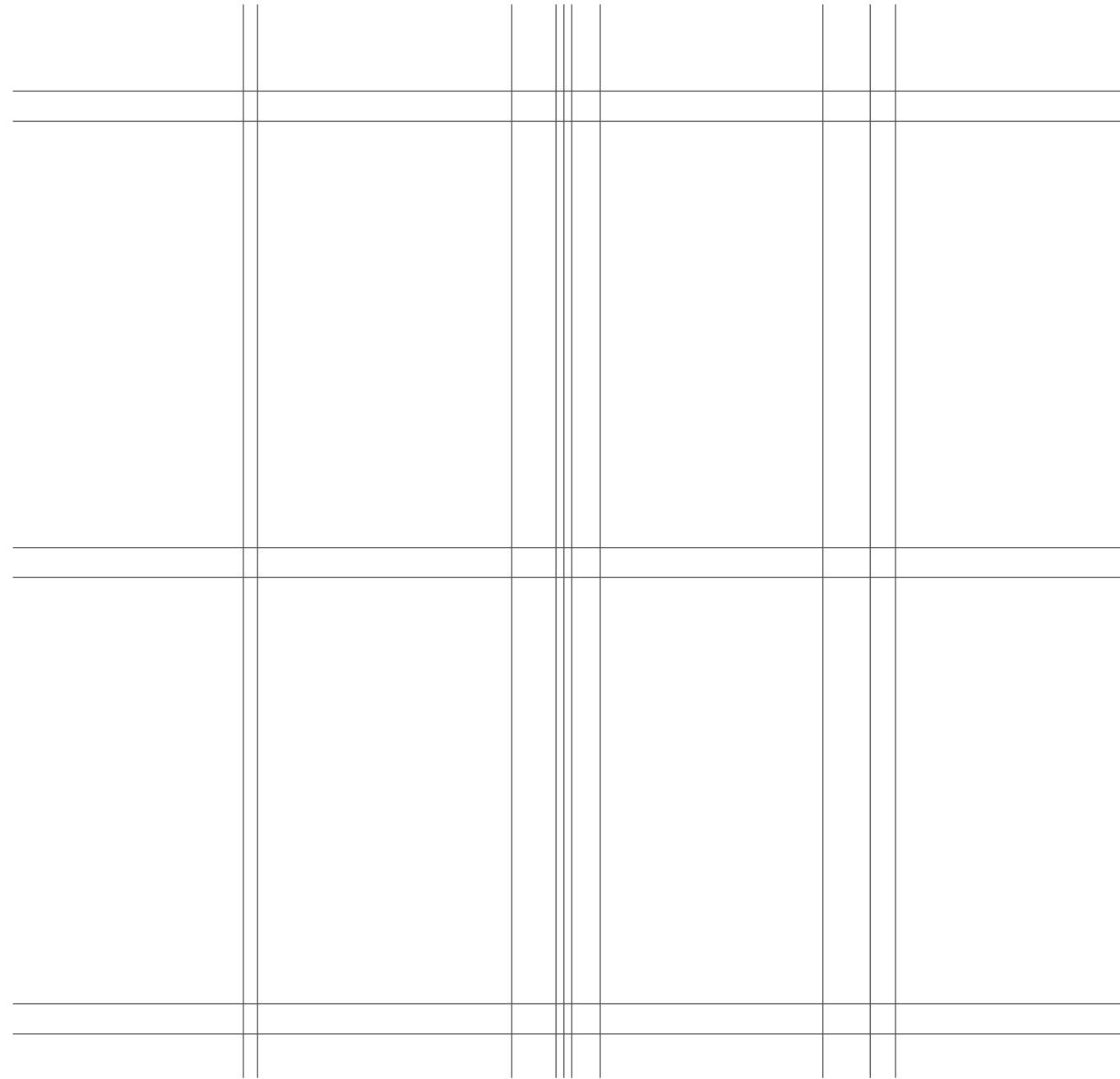




玉石の基礎







黄八丈織物





## 玉石基礎

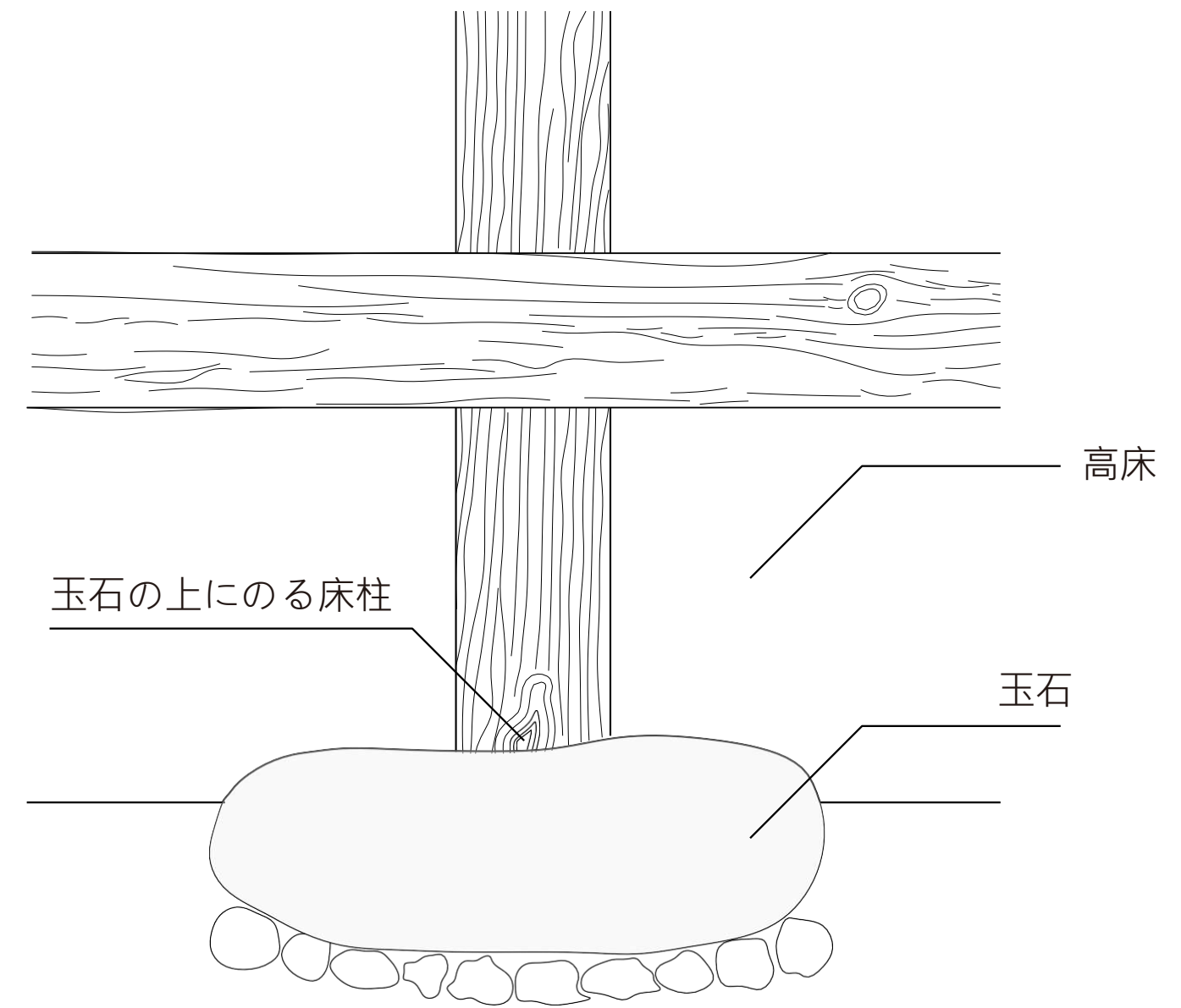
八丈島の古民家は、黒潮の石を積んだ玉石垣の上に築かれ、風雨に耐えながら島の暮らしを支えてきた。



玉石の記憶



玉石基礎



構成

## 黄八丈模様

八丈島に伝わる織物「黄八丈」は、水平と垂直の糸が交わる瞬間に、色と光が混ざり合い独自の表情を生み出す。

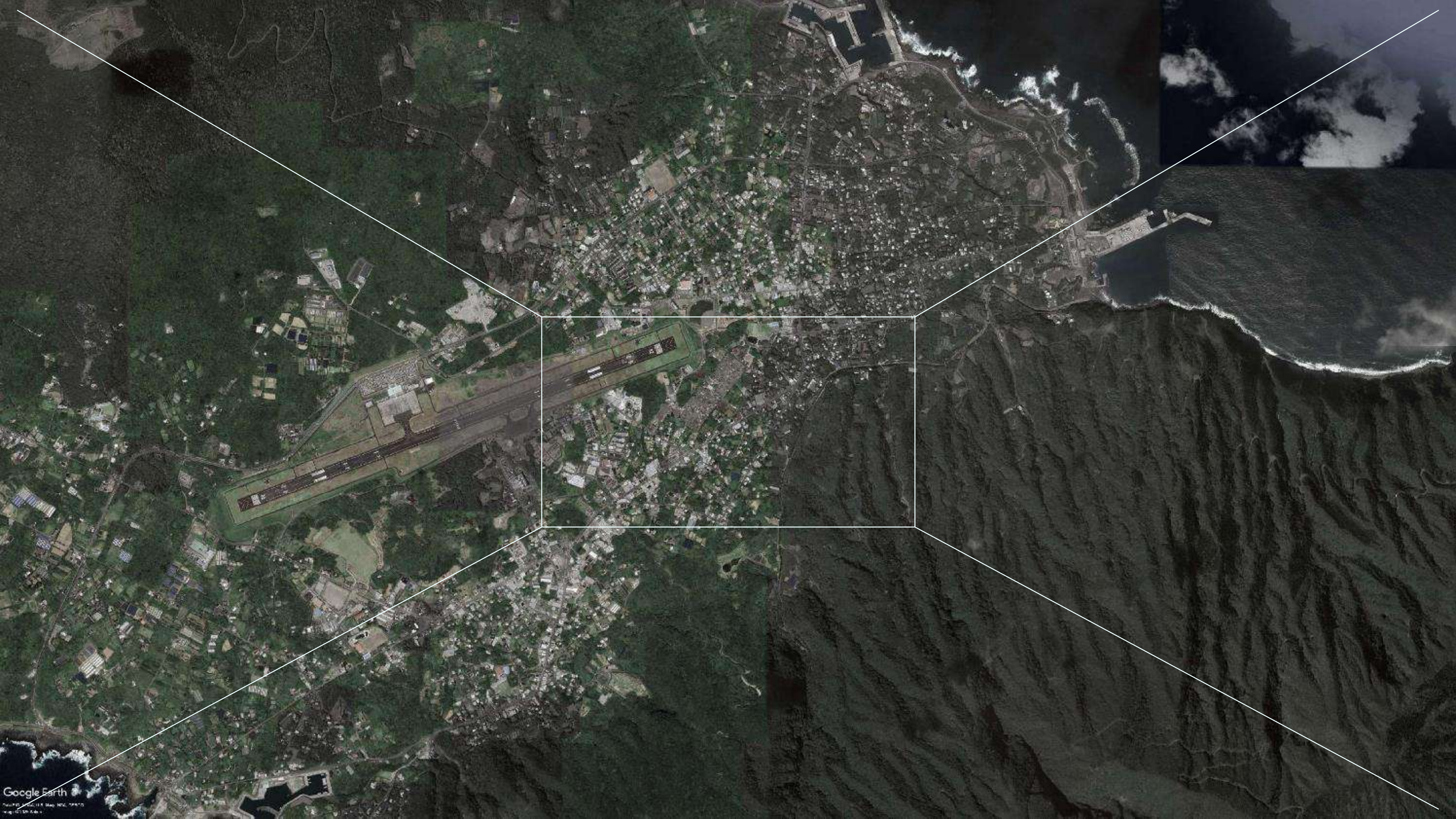


織りの記憶



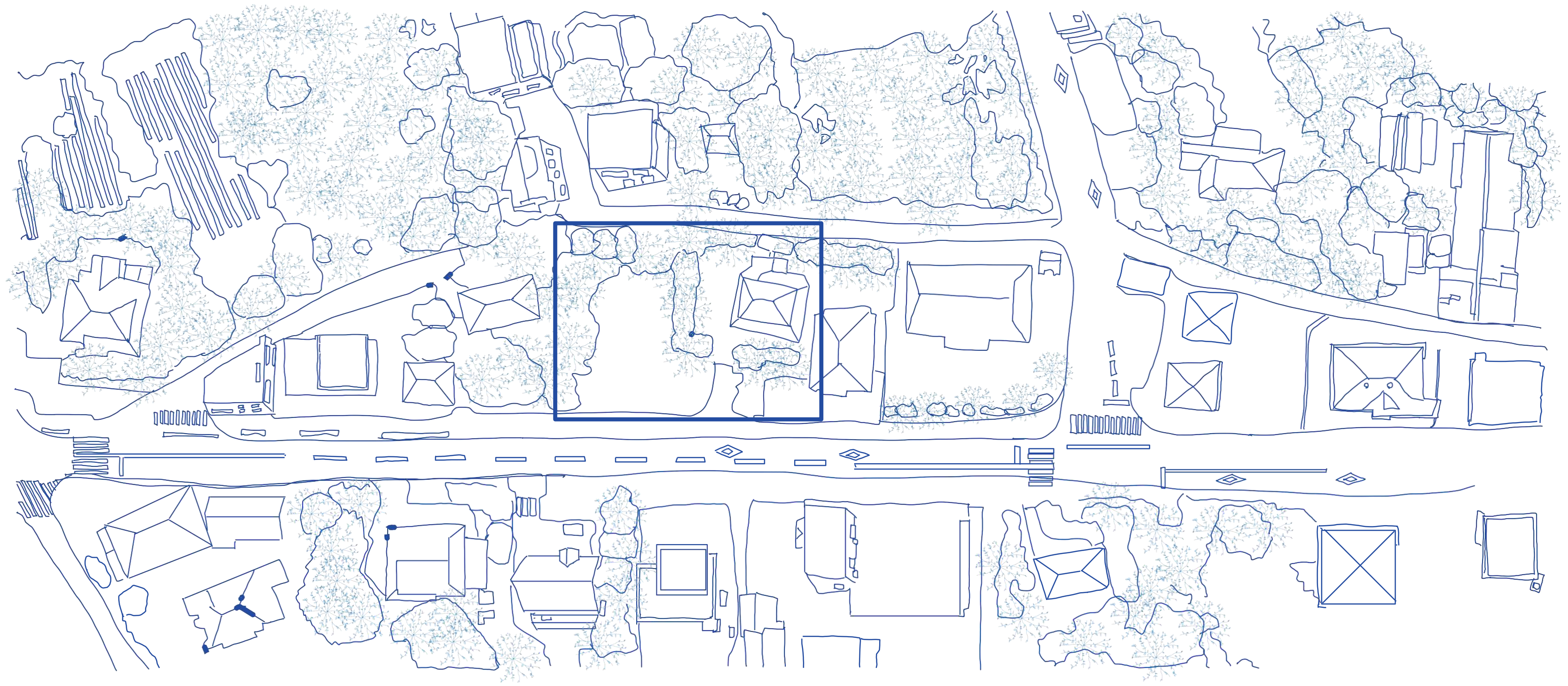
黄八丈模様

对象敷地

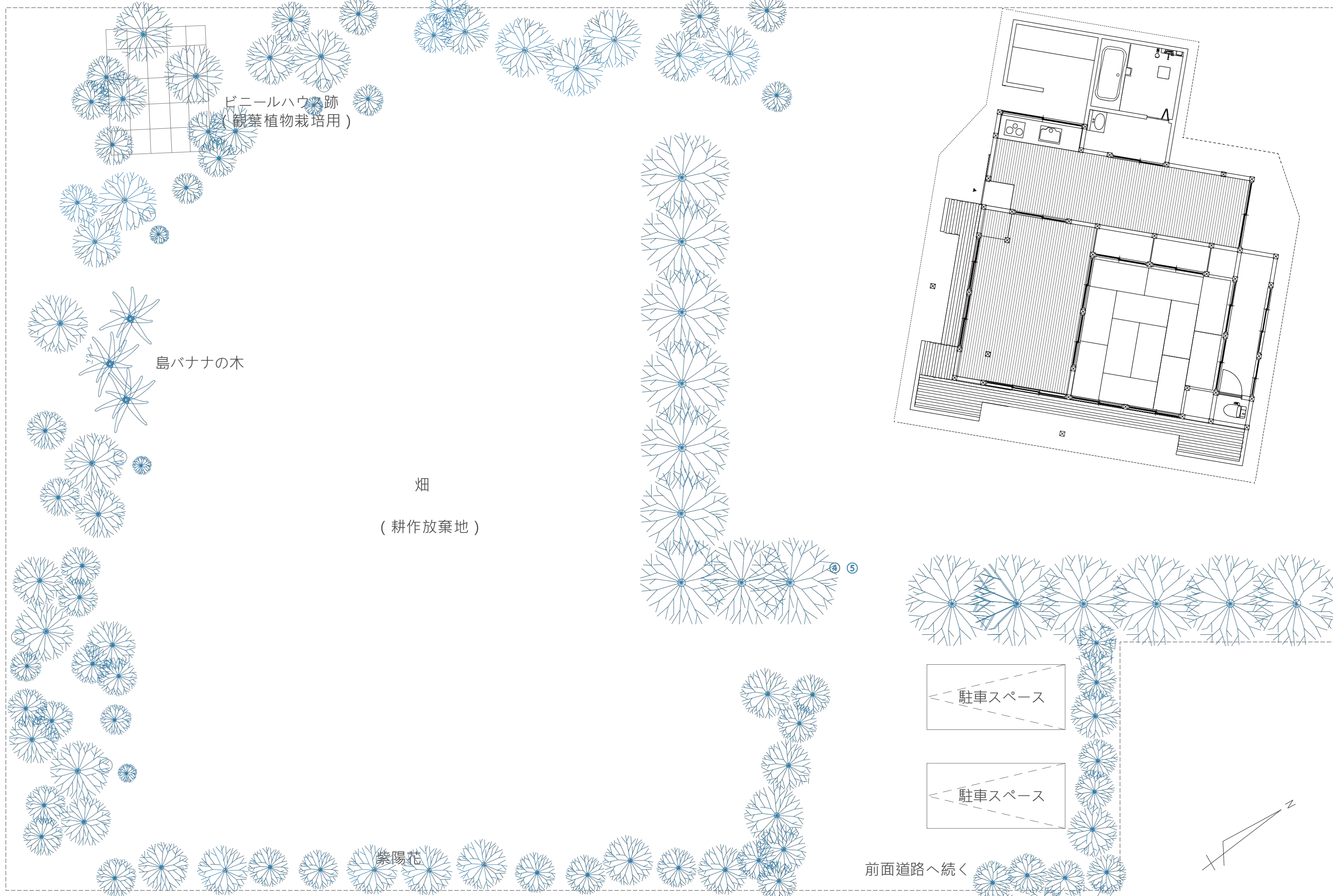




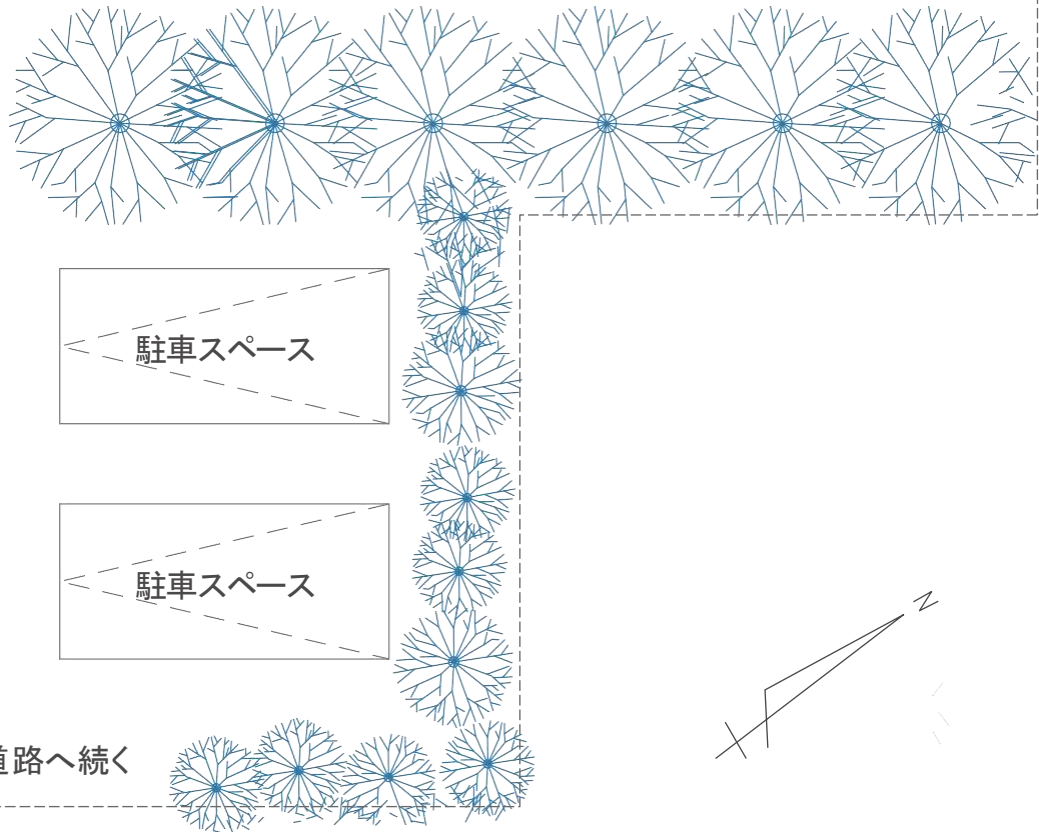
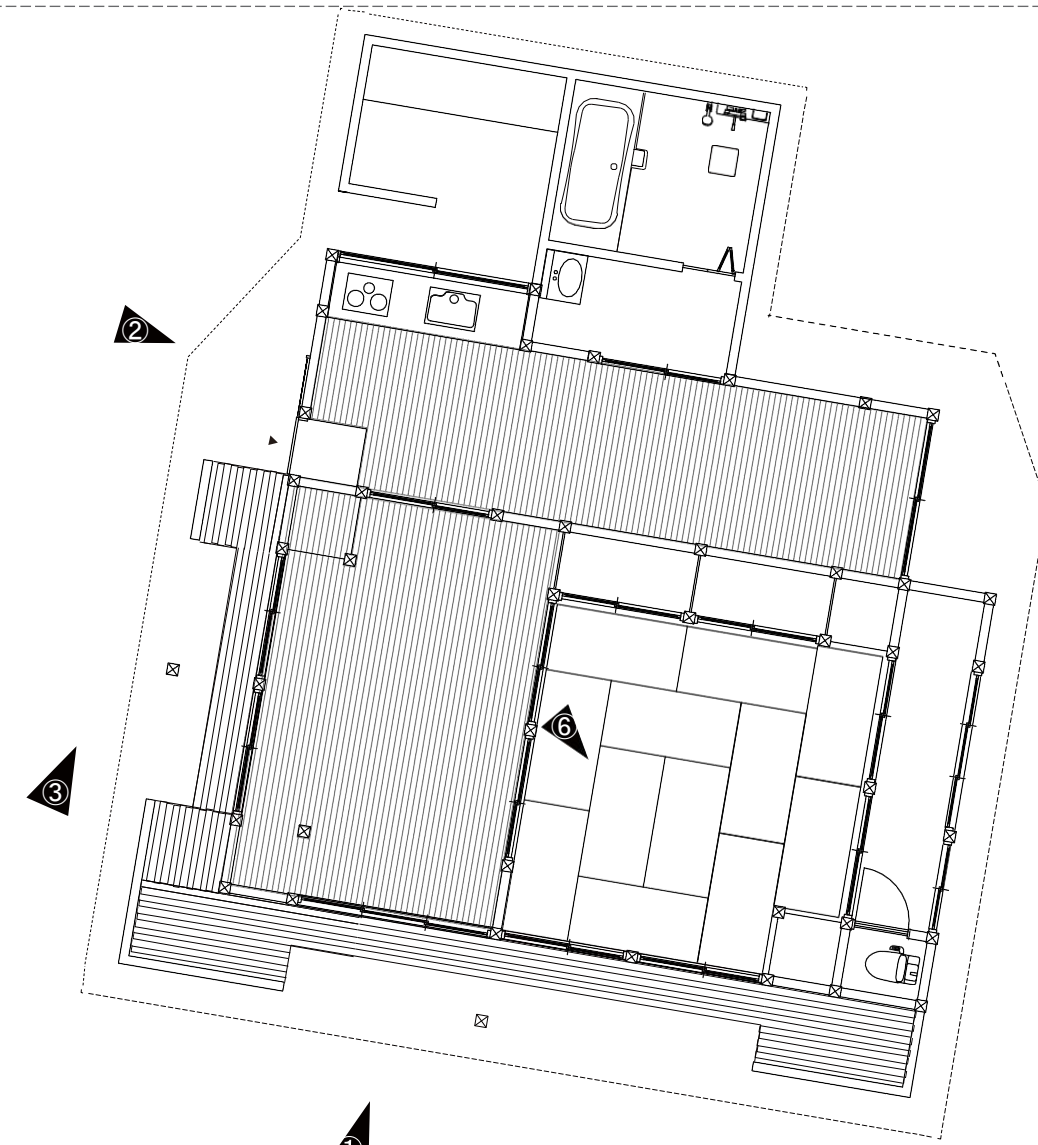




築約 153 年古民家・八丈中央道路に面する約 200 坪の果樹園



既存敷地図



既存敷地図

## 大家さんの思い

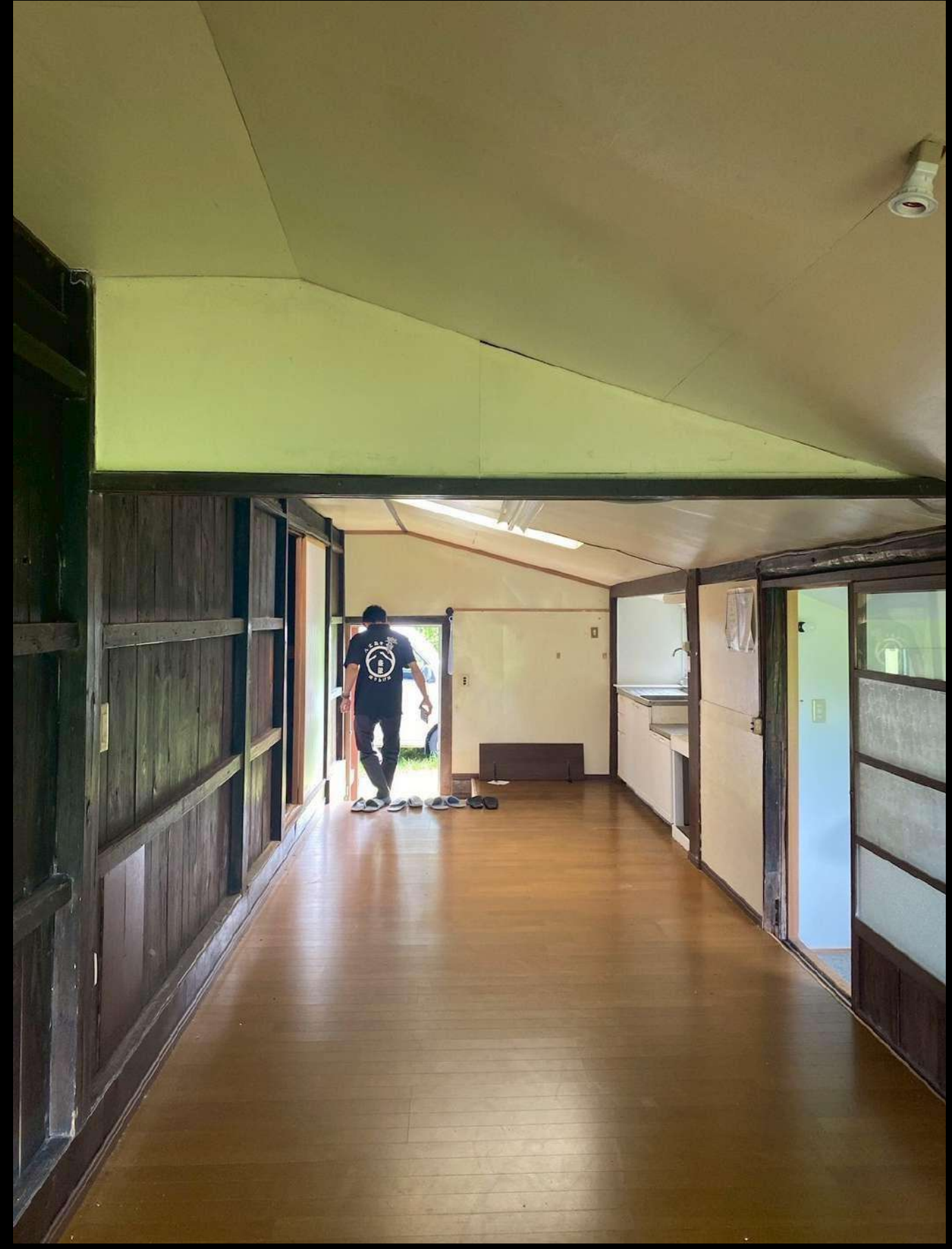
柱や梁など基本的な骨格は残してほしい。

島にとってプラスになるならどんなプランでも良い。

できれば「作物を育てる」形での活用を望む。







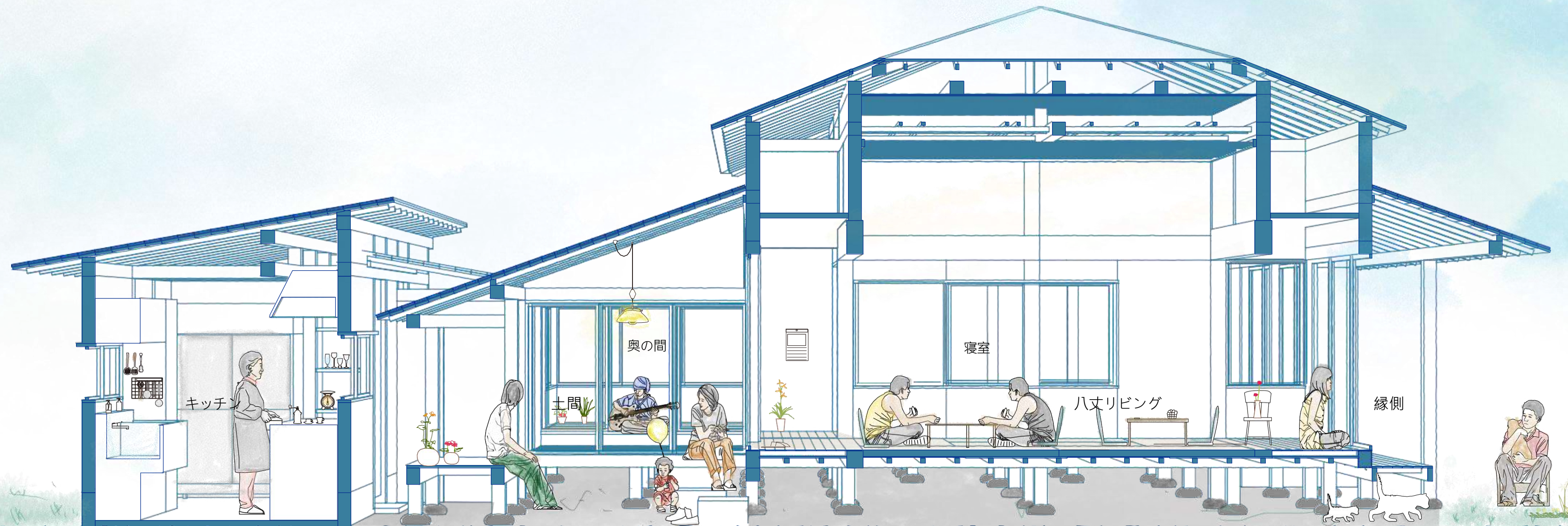


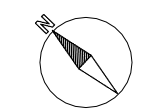
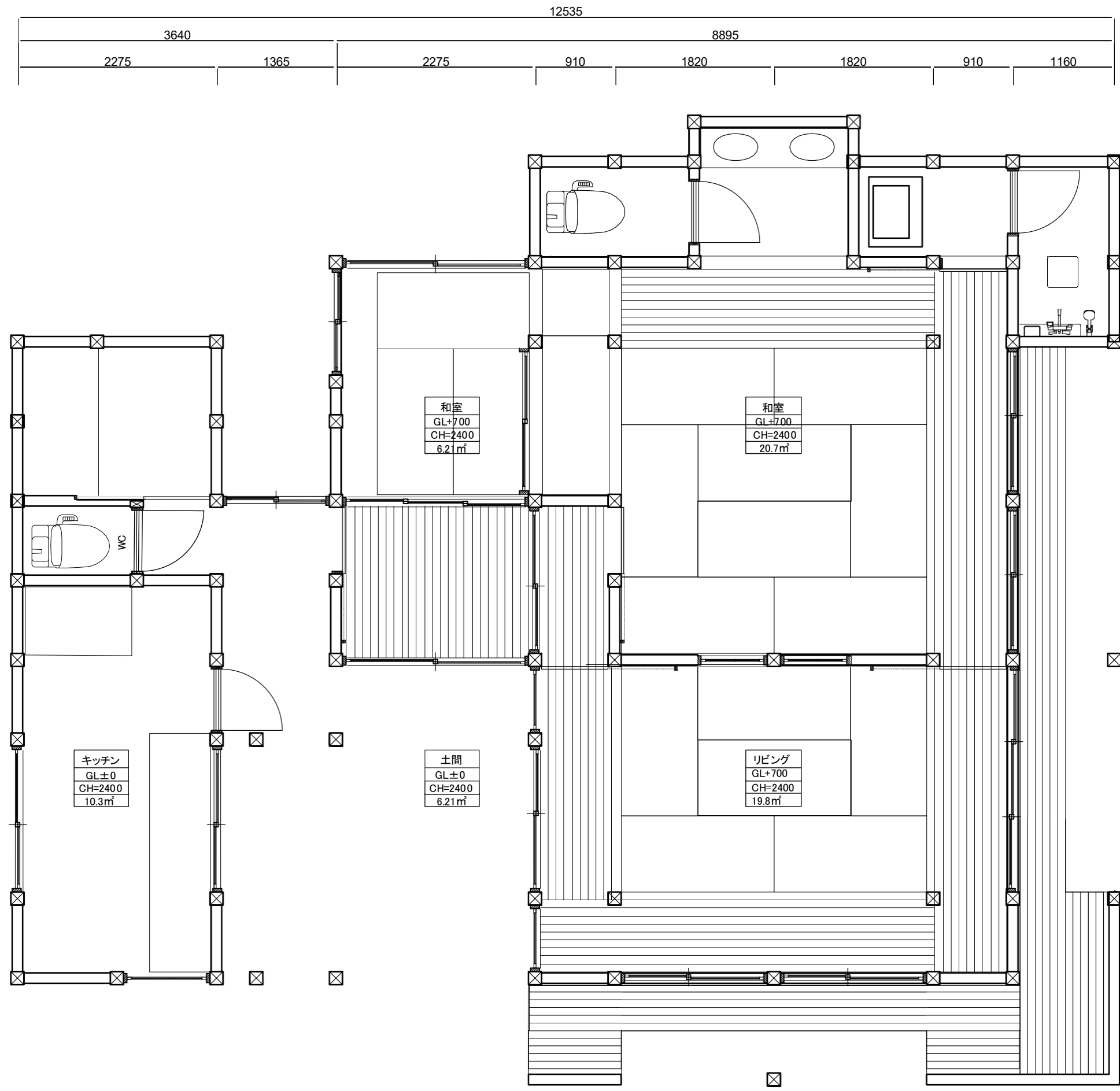
# 提案

# 田を分 かつイエ

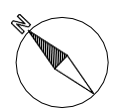
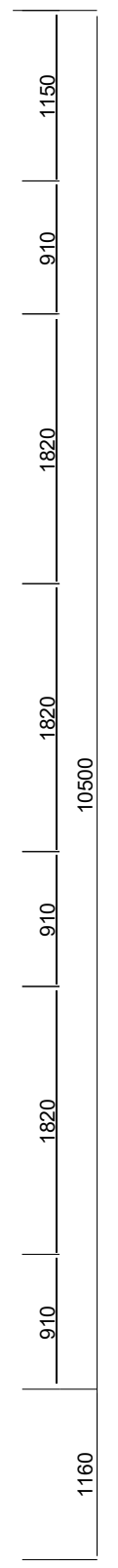
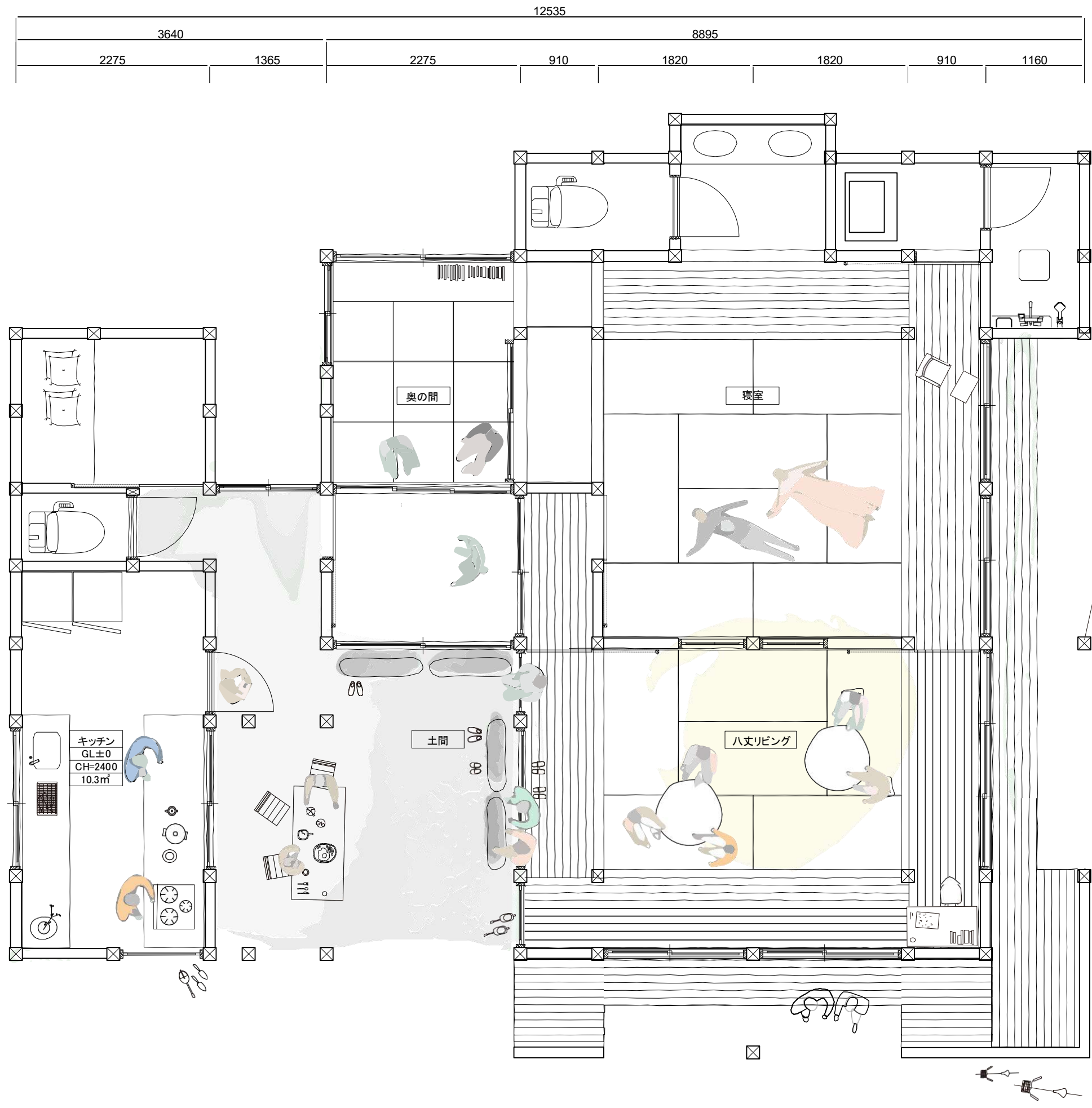
## 飲食 × 宿泊

宿泊と飲食を通して、島民と訪問者が交わる拠点をつくる。  
ここから、移住へとつながる関係が少しずつ育まれていく。





改修平面図



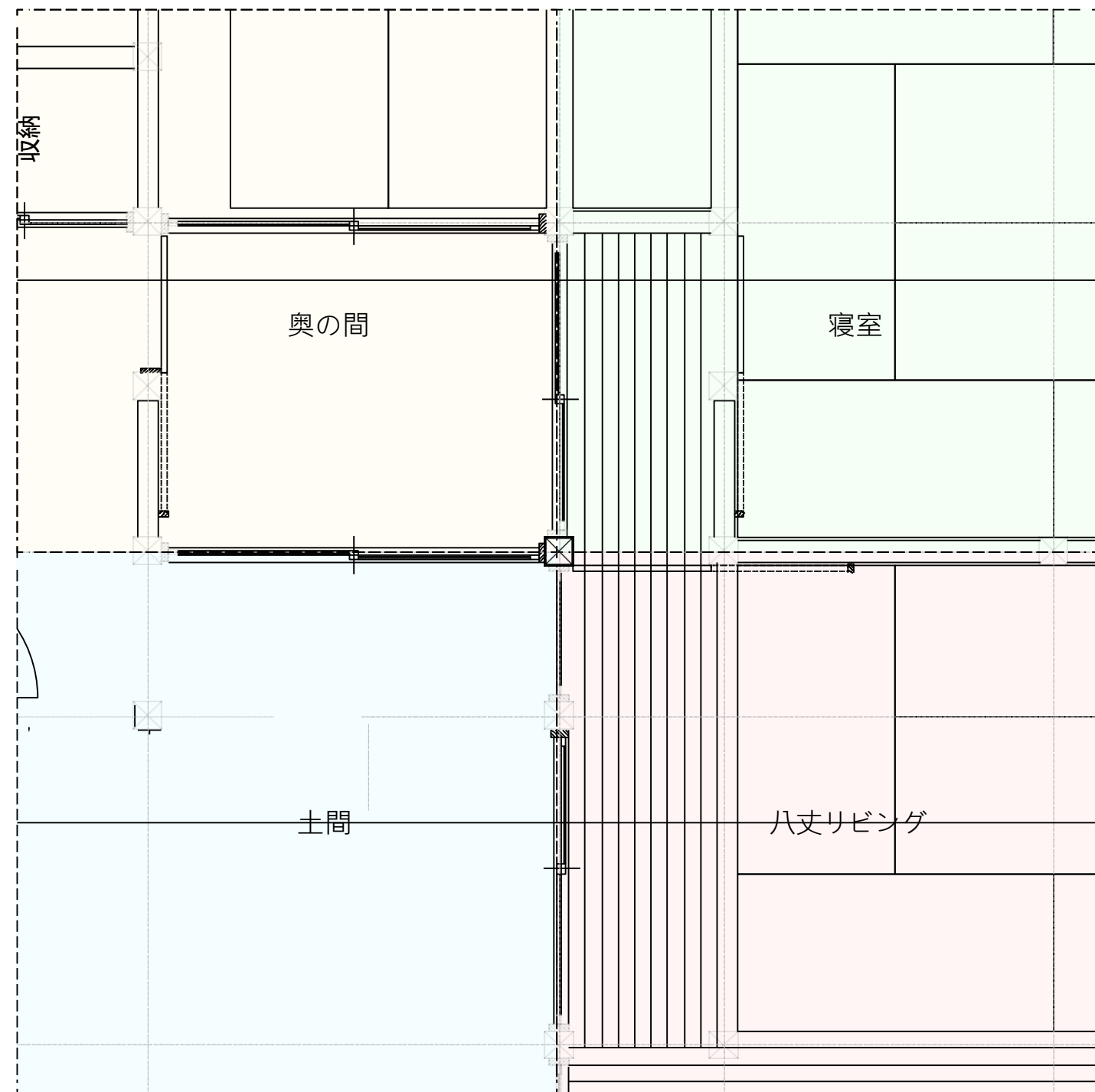
## 田の字

---

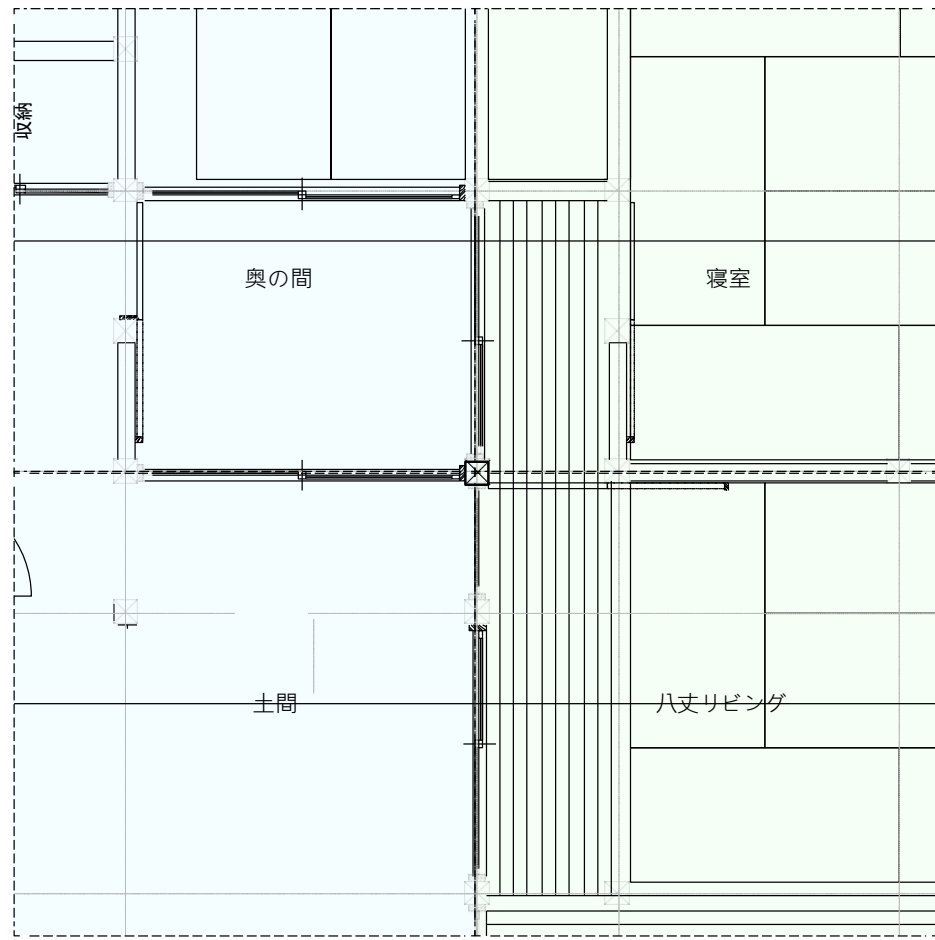
築153年の古民家は、柱や梁といった骨格を保ちながら、増改築を重ねて現代まで住み継がれてきた。

八丈中央道路に面するこの一等地において、かつての住まいを従来のように宿として閉じるのではなく、多様な人々に開かれた場へと更新することを目指した。

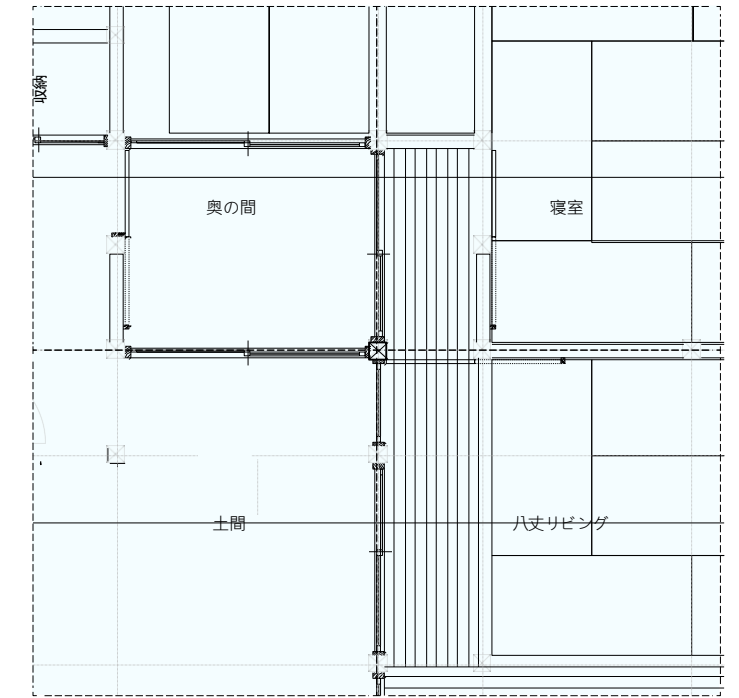
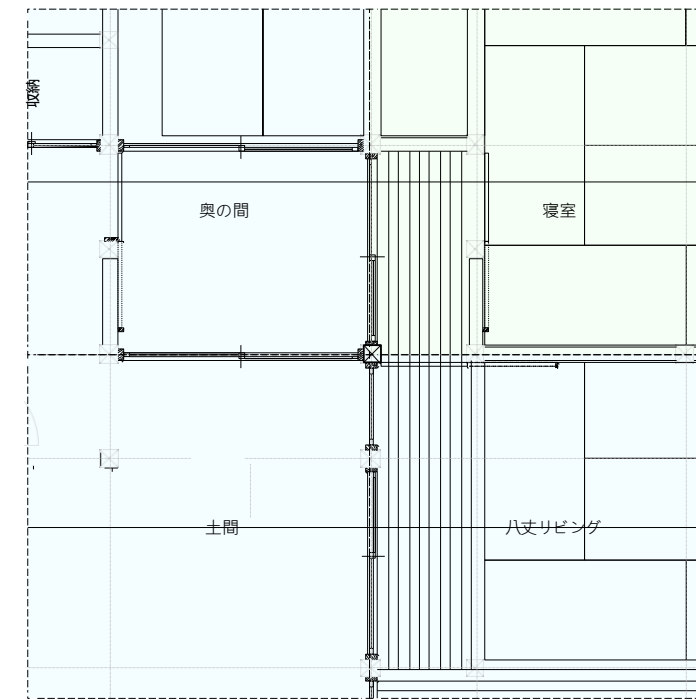
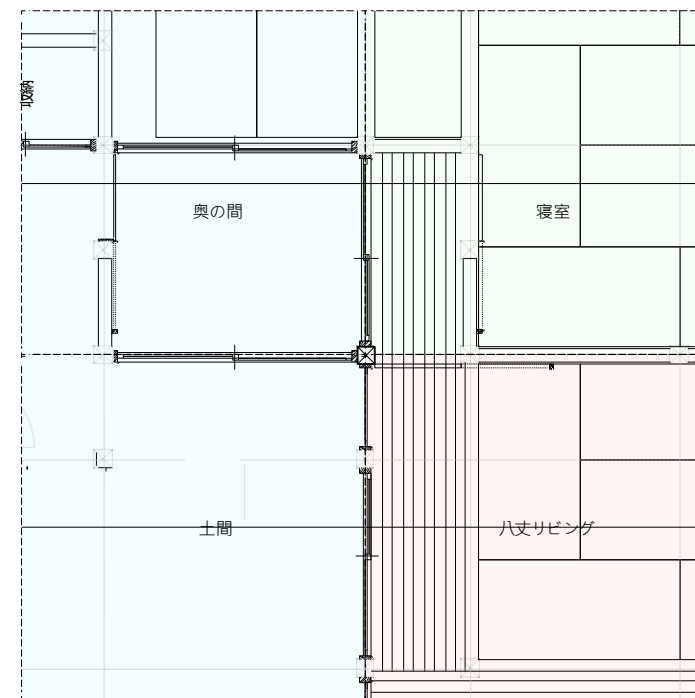
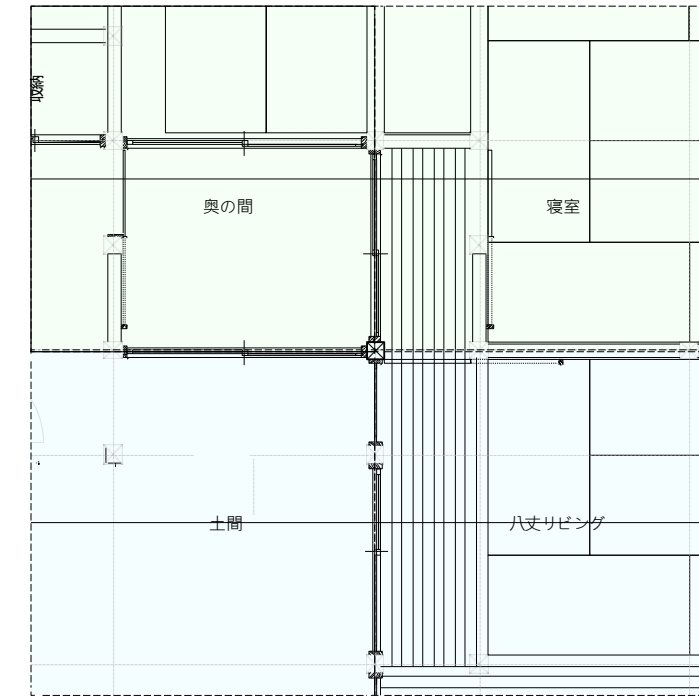
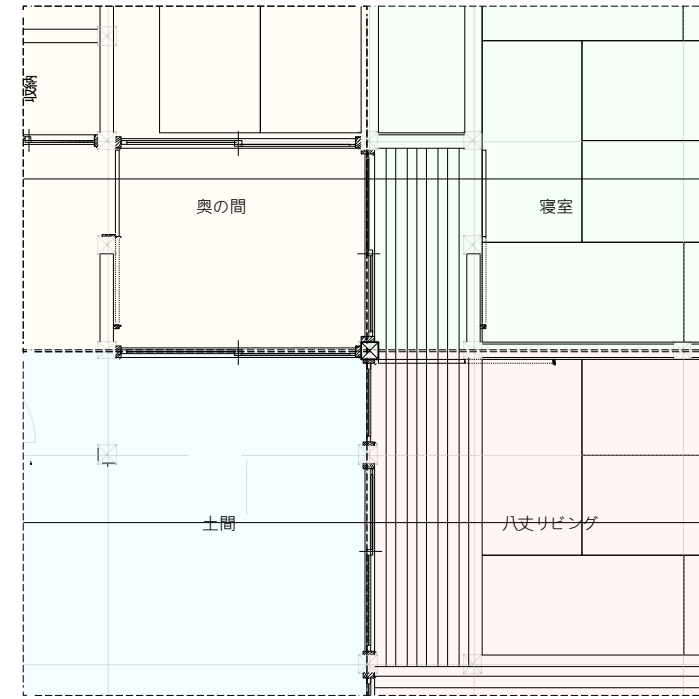
---



改修前



改修後



# 暮らしと旅が重なる場所

島の人と旅行者が庭先のベンチや土間に腰を下ろし、地元の野菜や手仕事の話をお互いに交わしている。観光としての一時的な関係ではなく、島での暮らしの延長線上にある自然な交流の姿を描いている。建物や庭は、その出会いを包み込むように開かれ、ここは地域の営みと旅人の時間がゆるやかに交わる場所になる。

## キッチンエリア

島の食材を調理し、地元の味を分かち合う場所。料理の香りが空間に広がり、自然と会話が生まれる。

## 奥の間

畳の上で島の人と旅人がゆったりと語らう場。時間の流れが緩やかに感じられる。

## 宿泊エリア

外の気配を感じながら休む静かな空間。旅人が島の時間に身を委ねる場所。

## 土間エリア

屋内外の境を曖昧にする中間領域。人の動きや風が通り抜け、偶然の出会いを誘う。

## 八丈リビング

誰もが立ち寄れる開かれた縁側のような場。日常と旅の風景が重なり、新しい関係が芽生える。





八丈格子

布

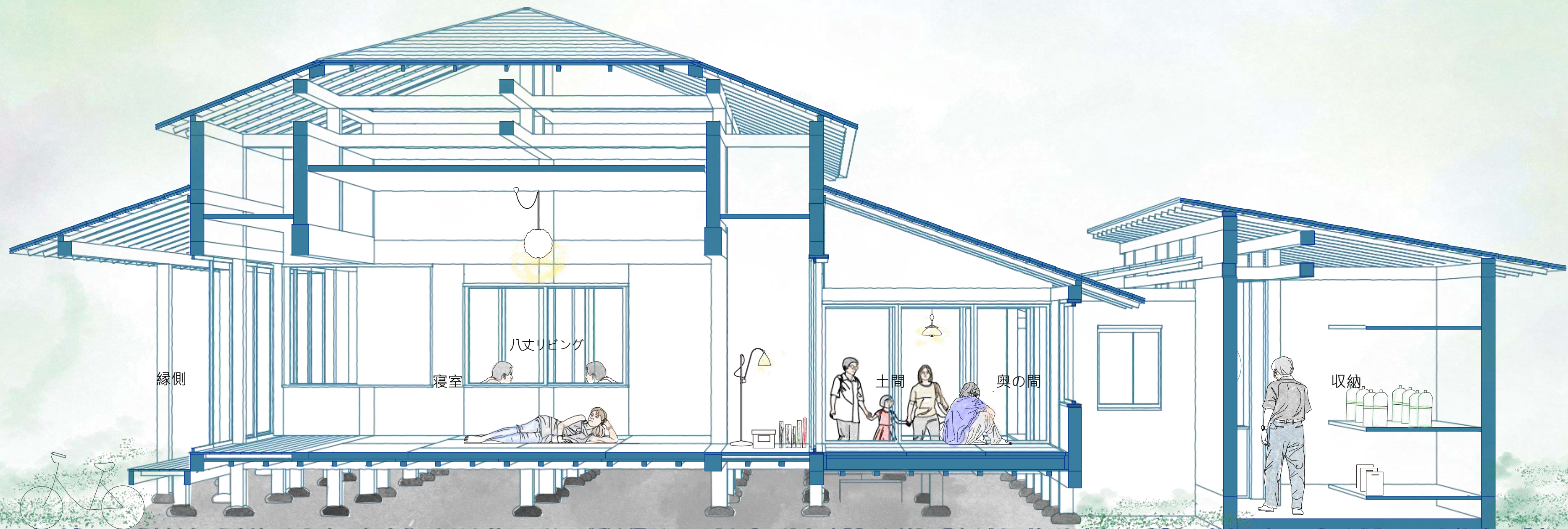
縁側

八丈リビング

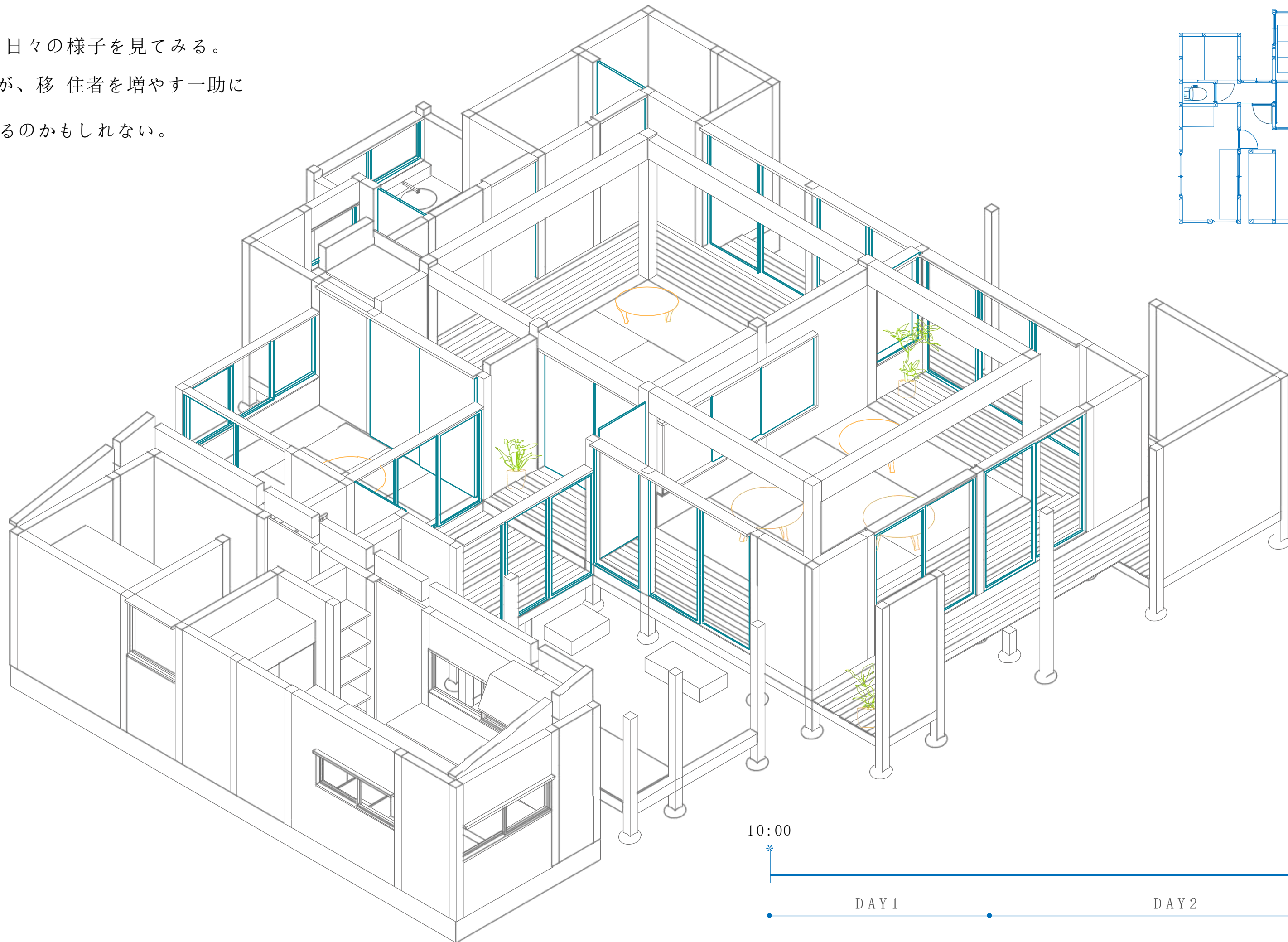
寝室

奥の間

洗面



ここでの日々の様子を見てみる。  
こんな日常が、移住者を増やす一助に  
なるのかもしれない。



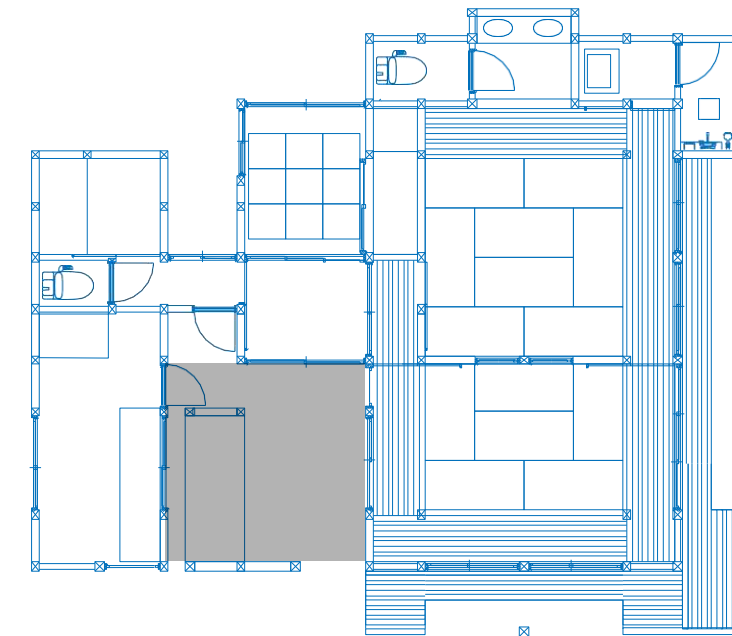
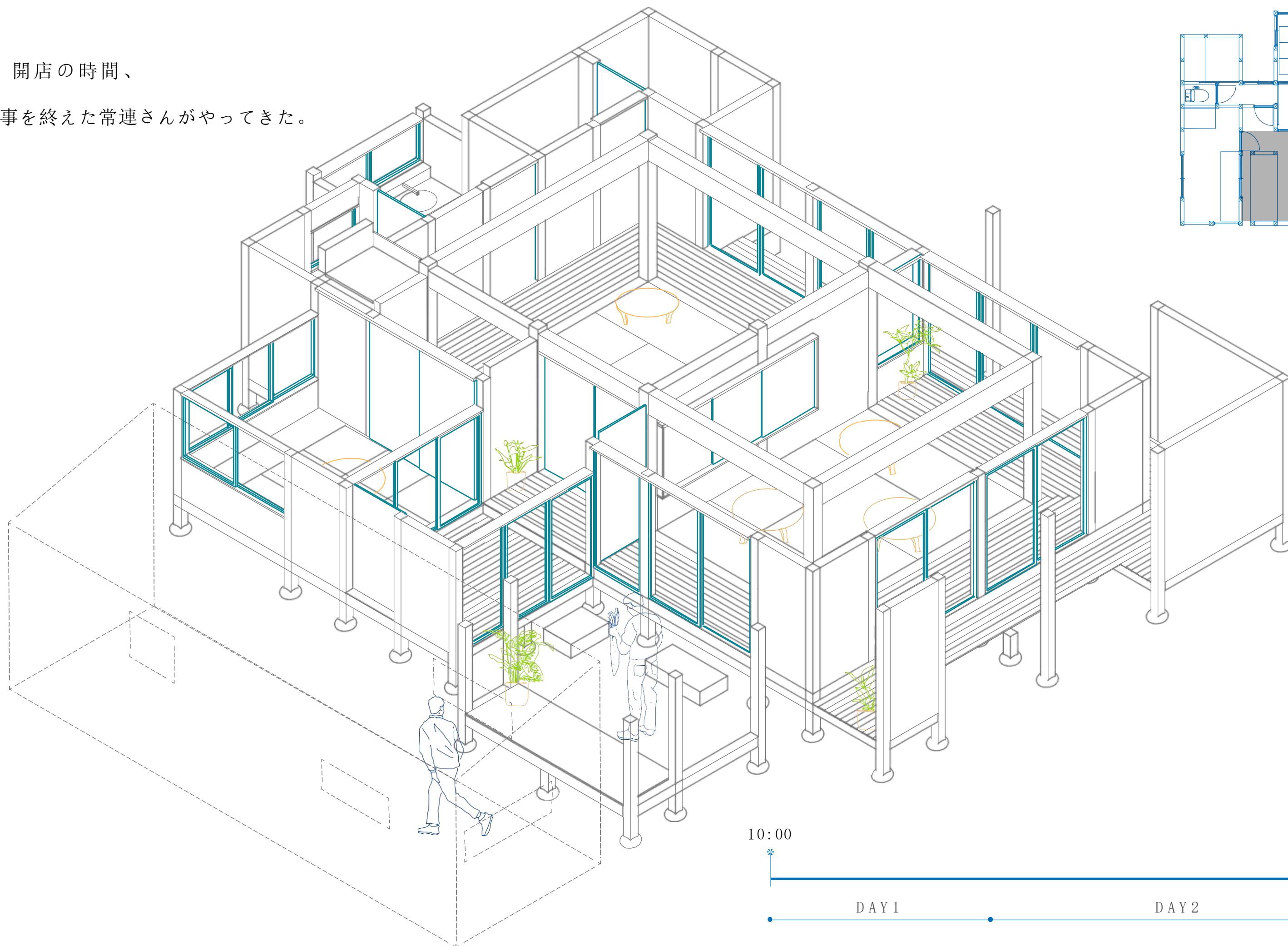
10:00

DAY 1

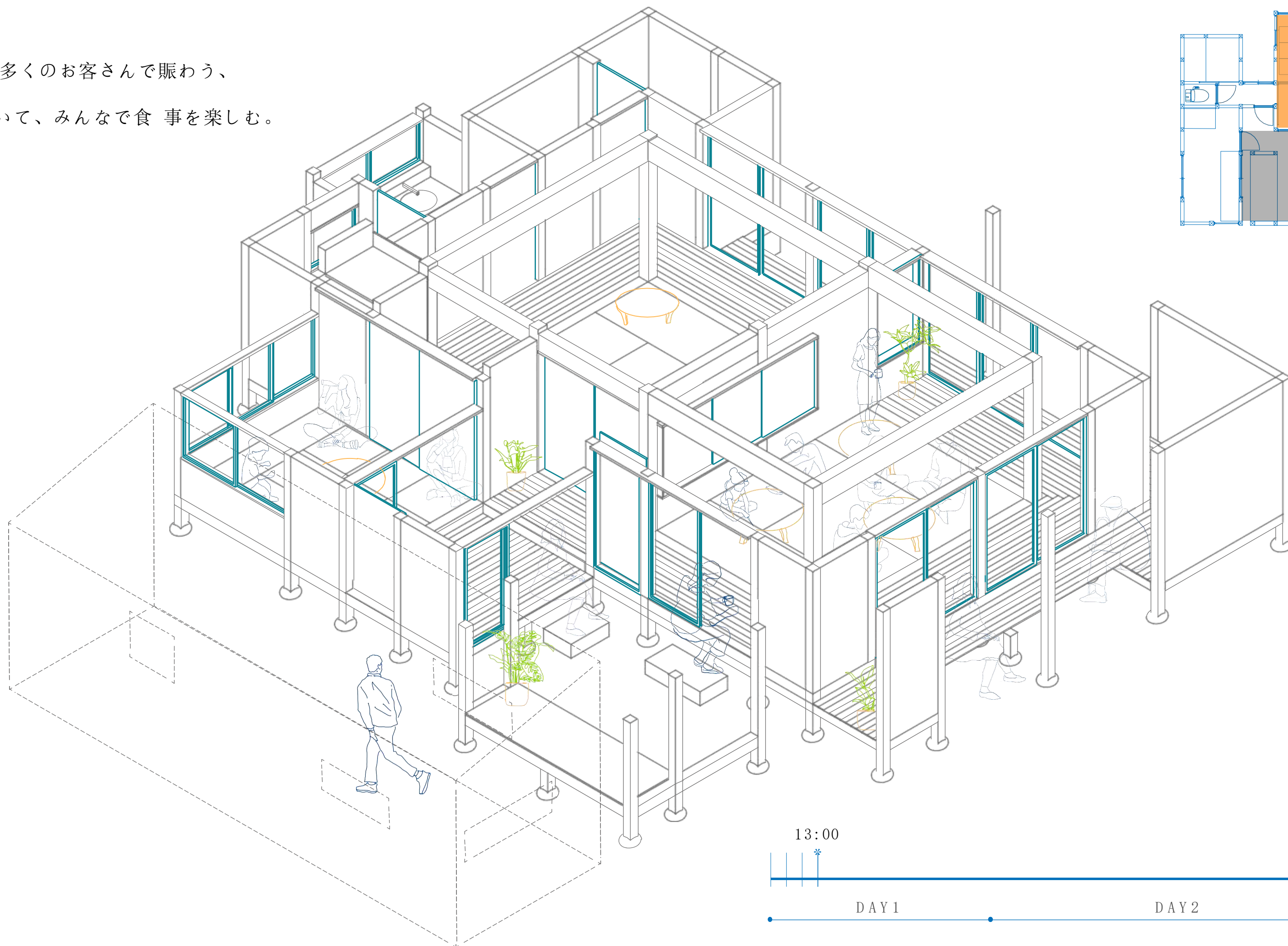
DAY 2

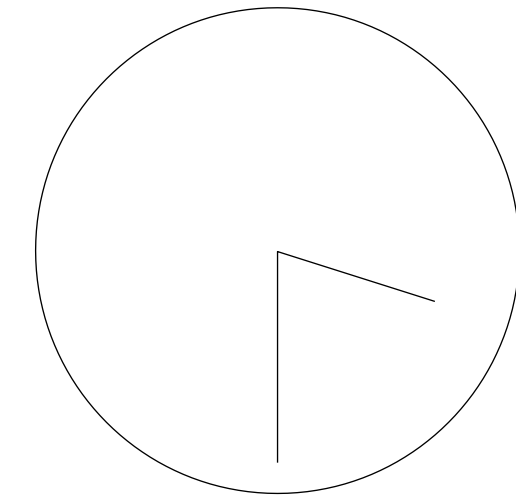
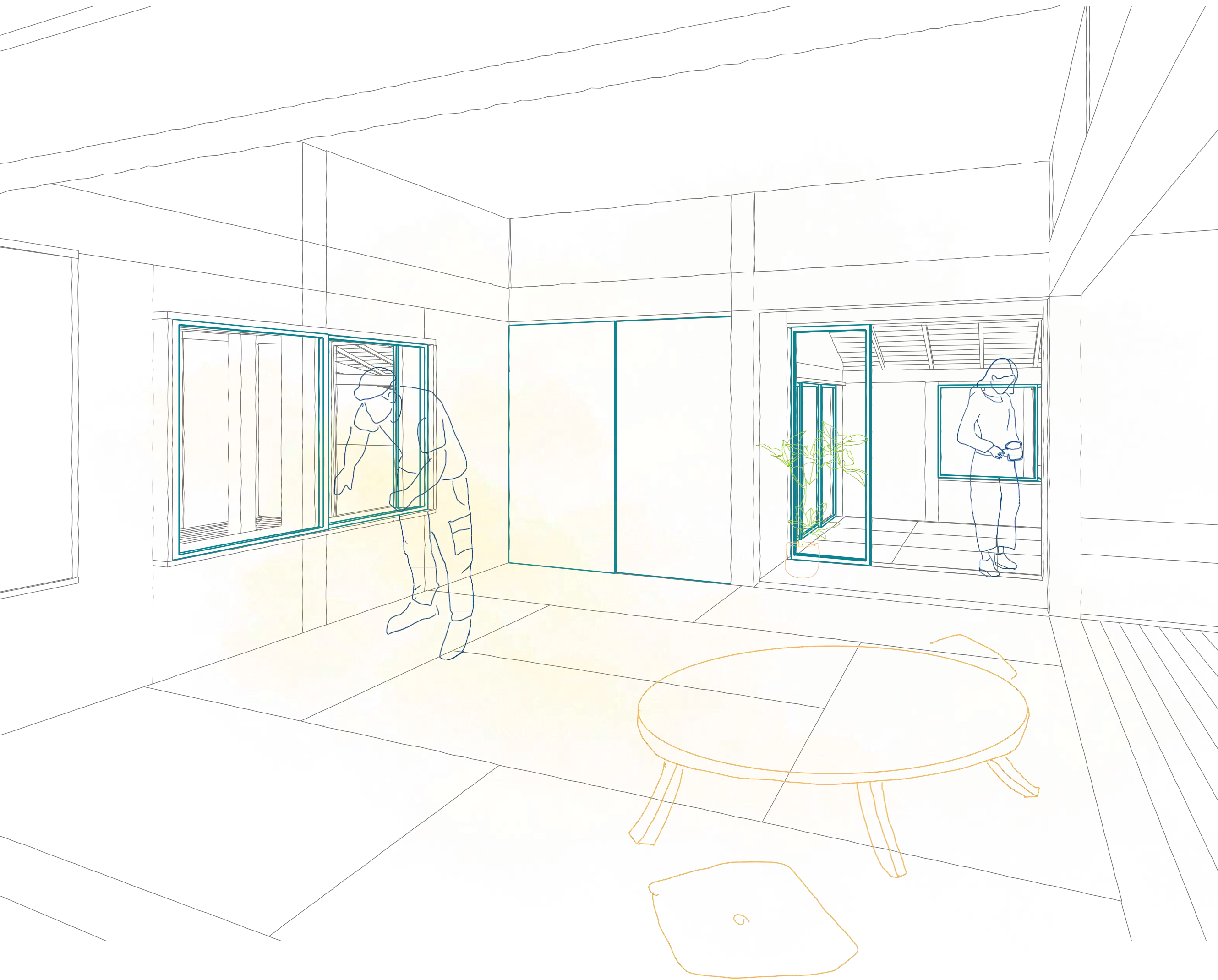
DAY 3

開店の時間、  
早速、朝の畑仕事を終えた常連さんがやってきた。



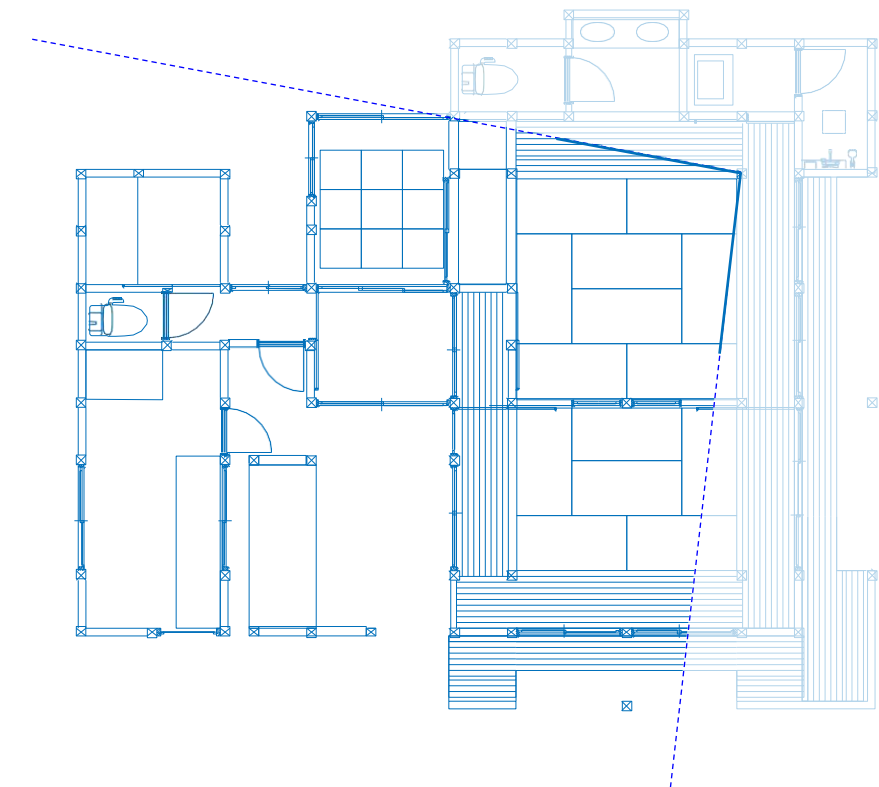
昼過ぎ、多くのお客さんで賑わう、  
奥の間まで開いて、みんなで食事を楽しむ。

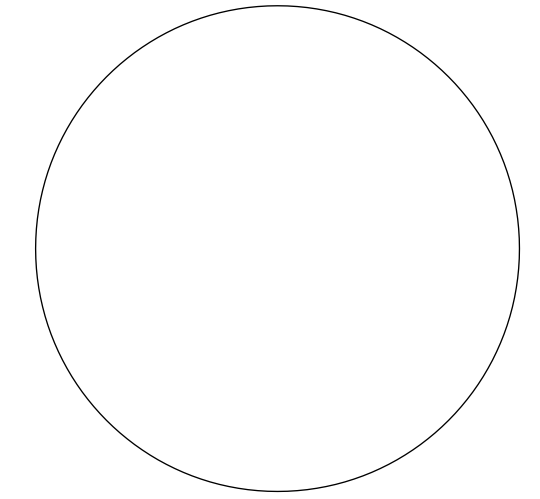
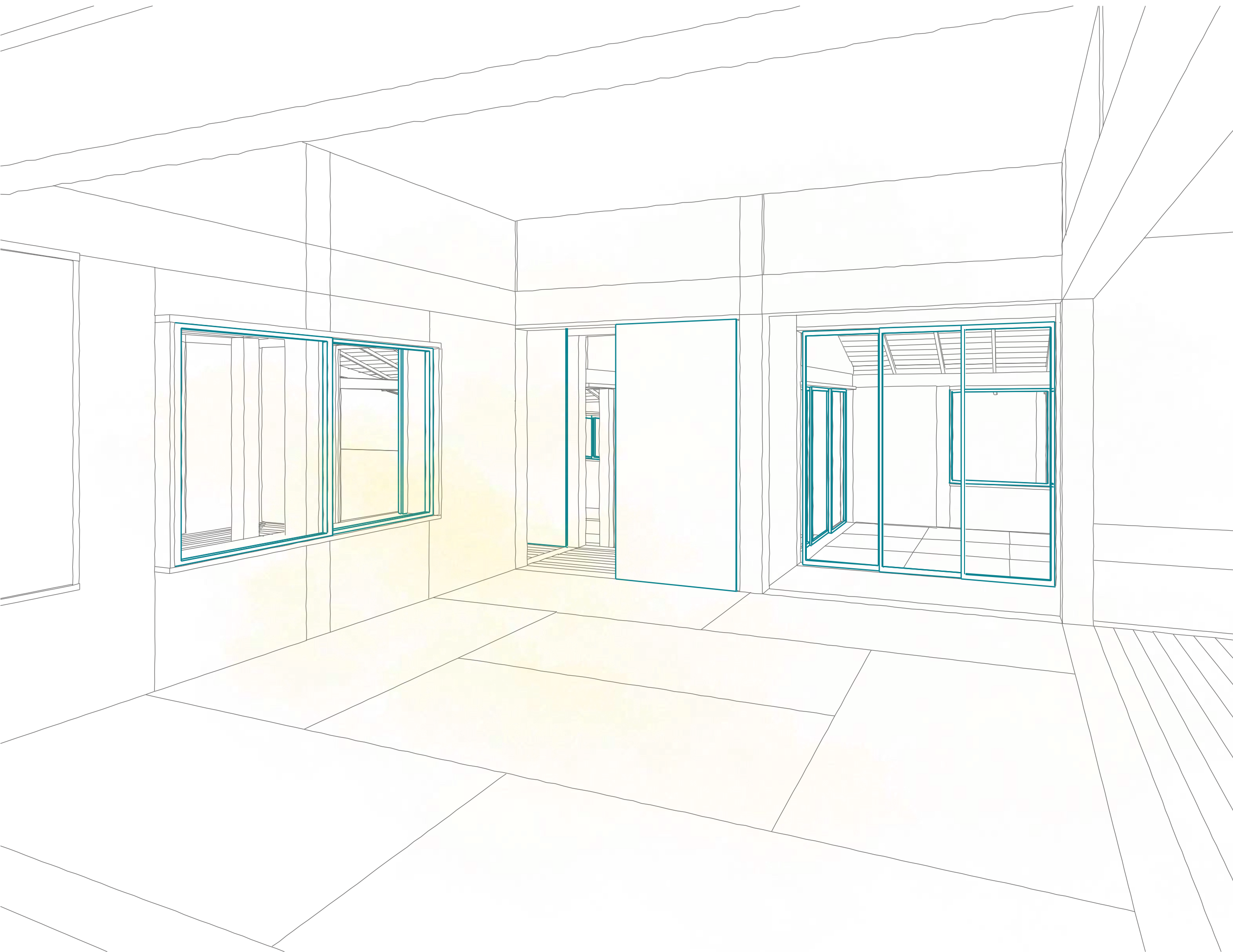




15:30-/After a short break-探索

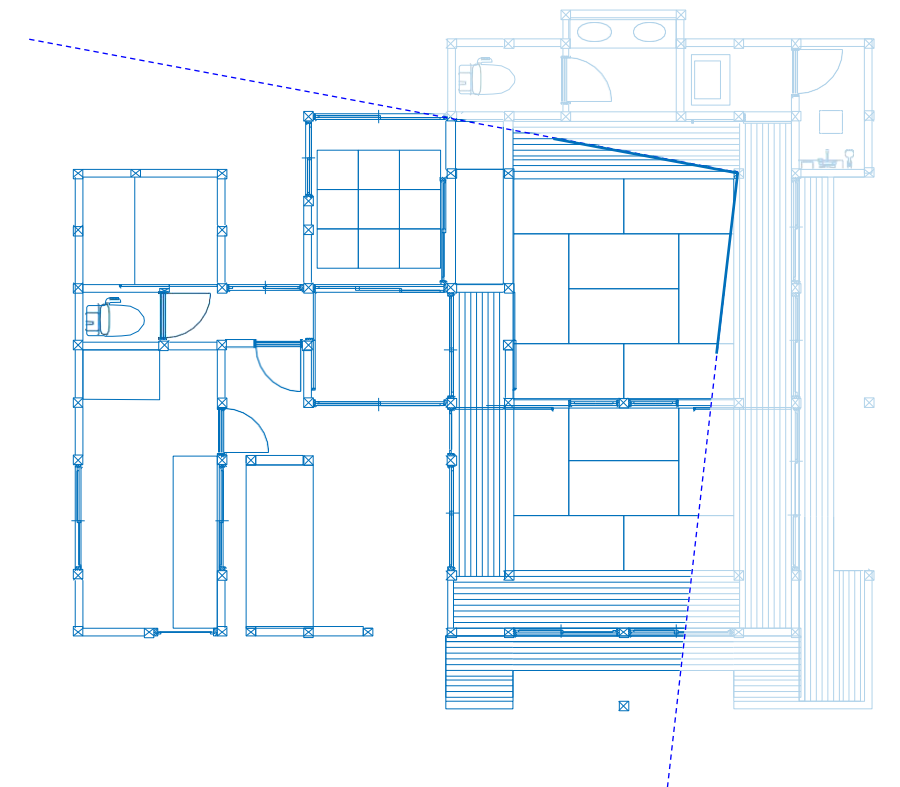
八丈リビングの方の窓まで開けてみると、トップライトの光が  
柔らかく漏れ出てきた。

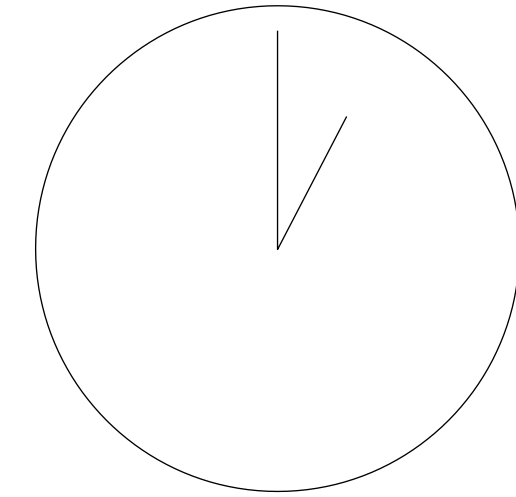




〇〇 :〇〇 -/whenever- いつでも

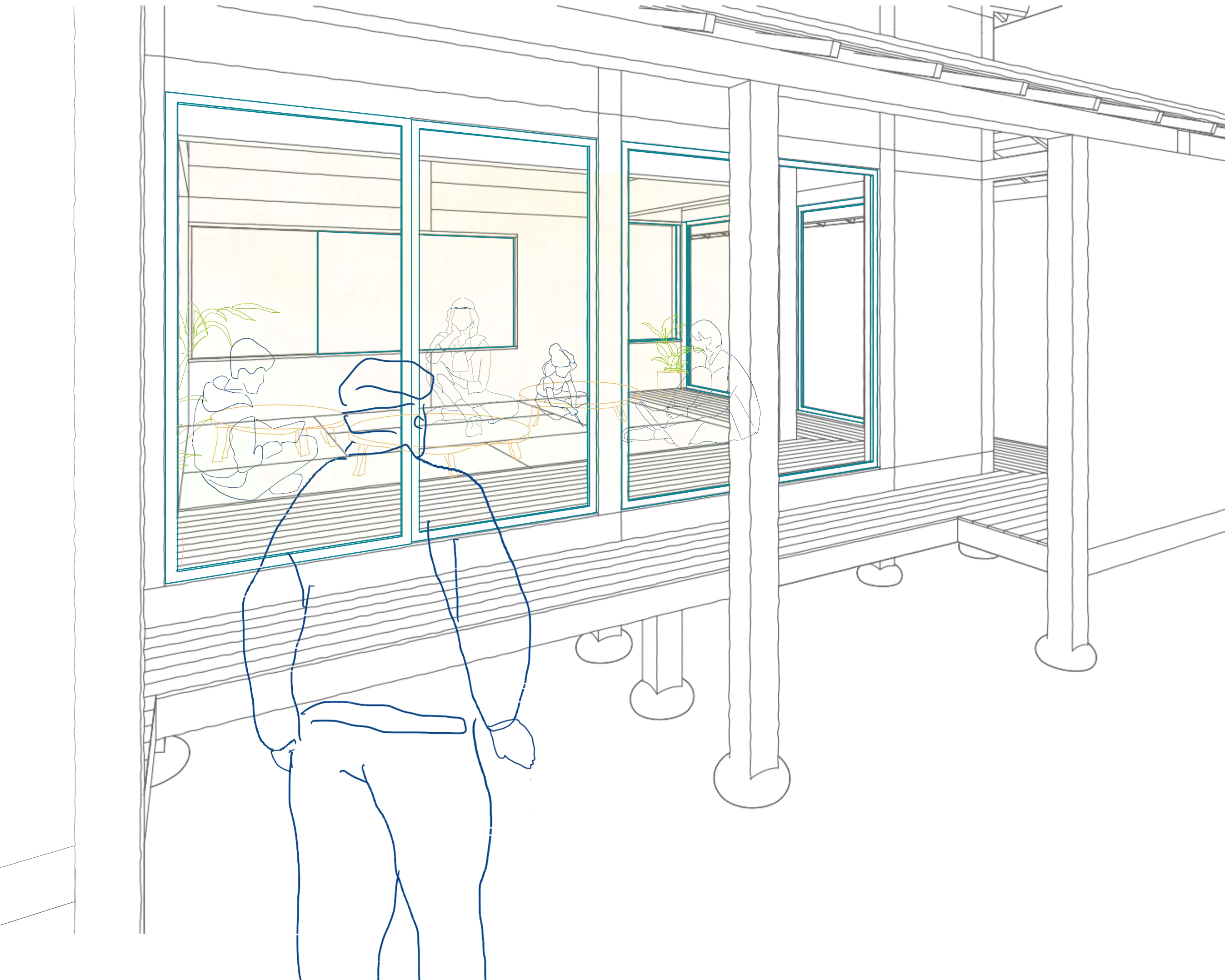
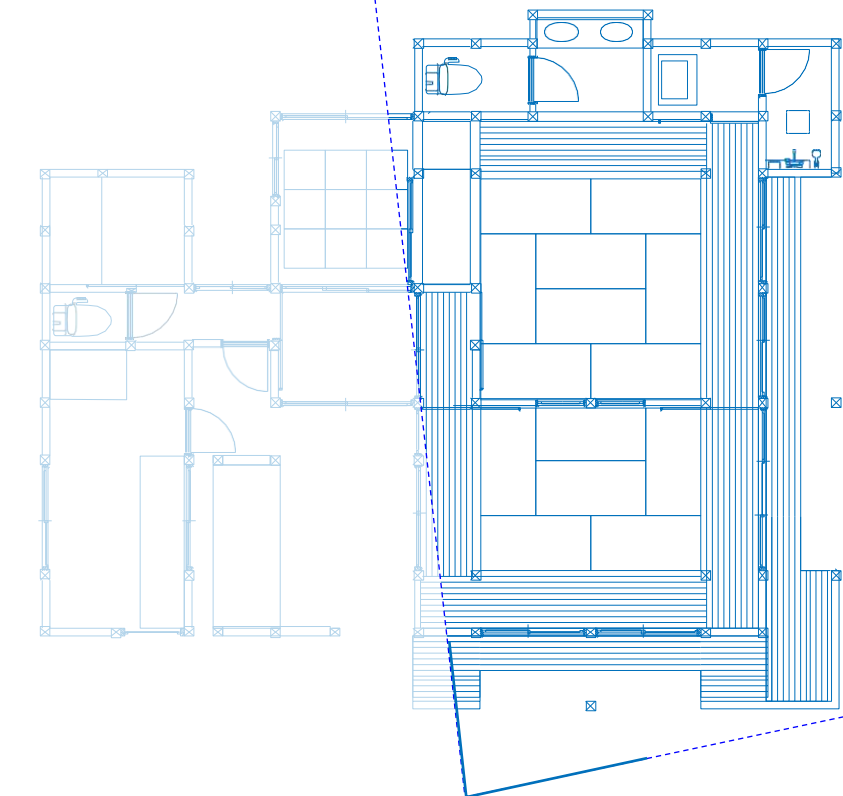
建具の動かし方次第で、様々な人数、ニーズに  
応えられる部屋に変化できる。

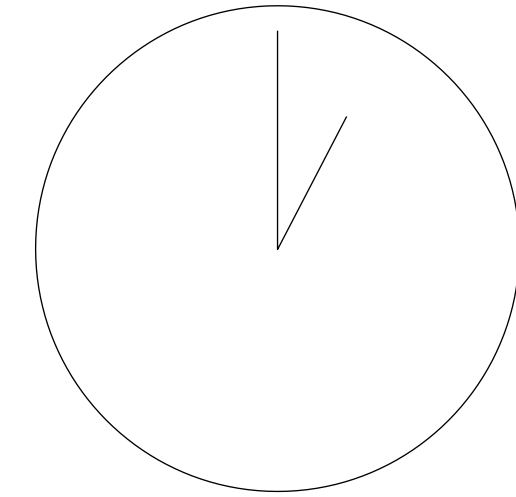




13:00-/Lunch time-昼下がり

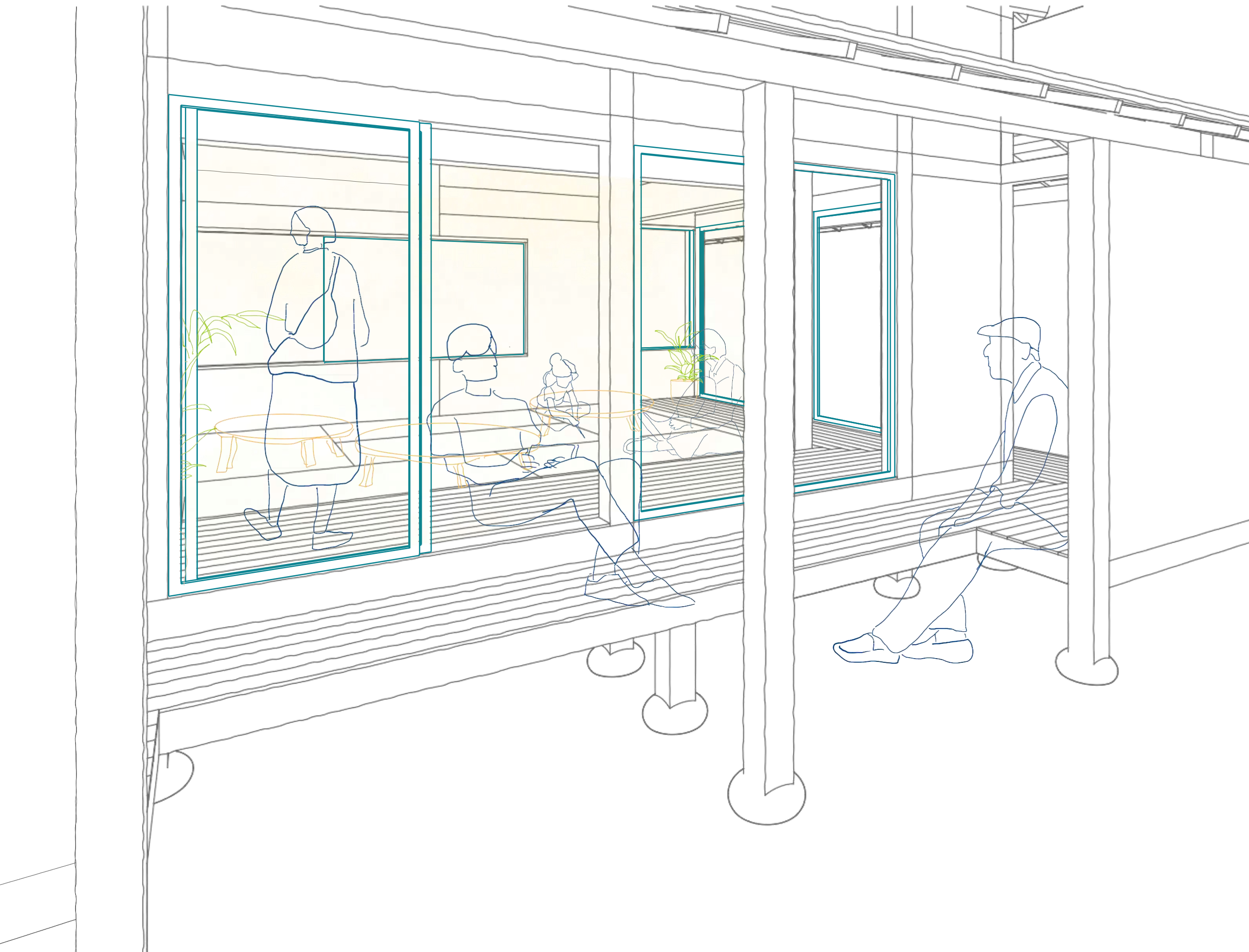
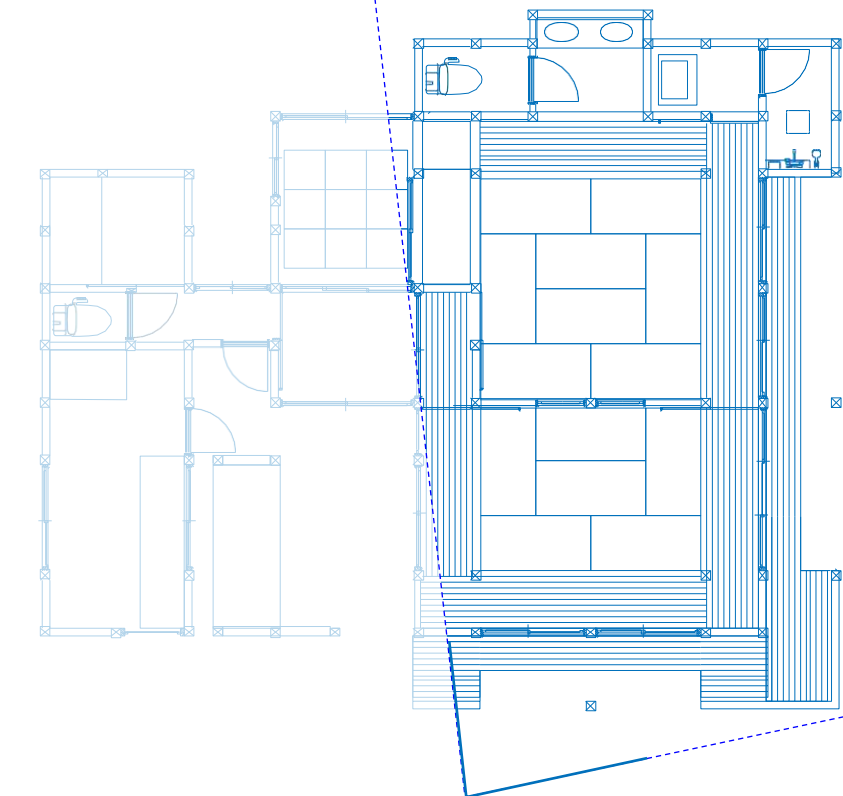
ランチの賑わいに誘われ、畑 仕事の手を止めて  
店を覗きにやってきた。

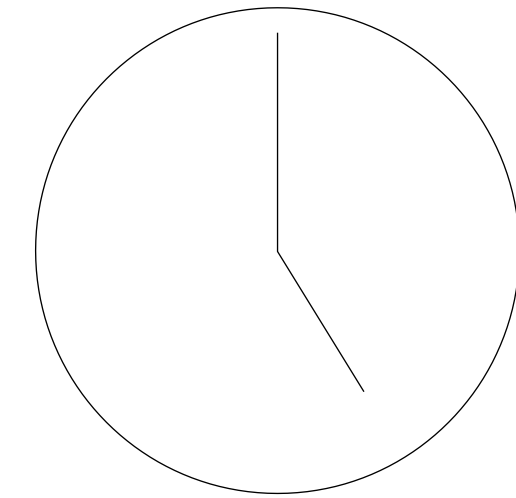
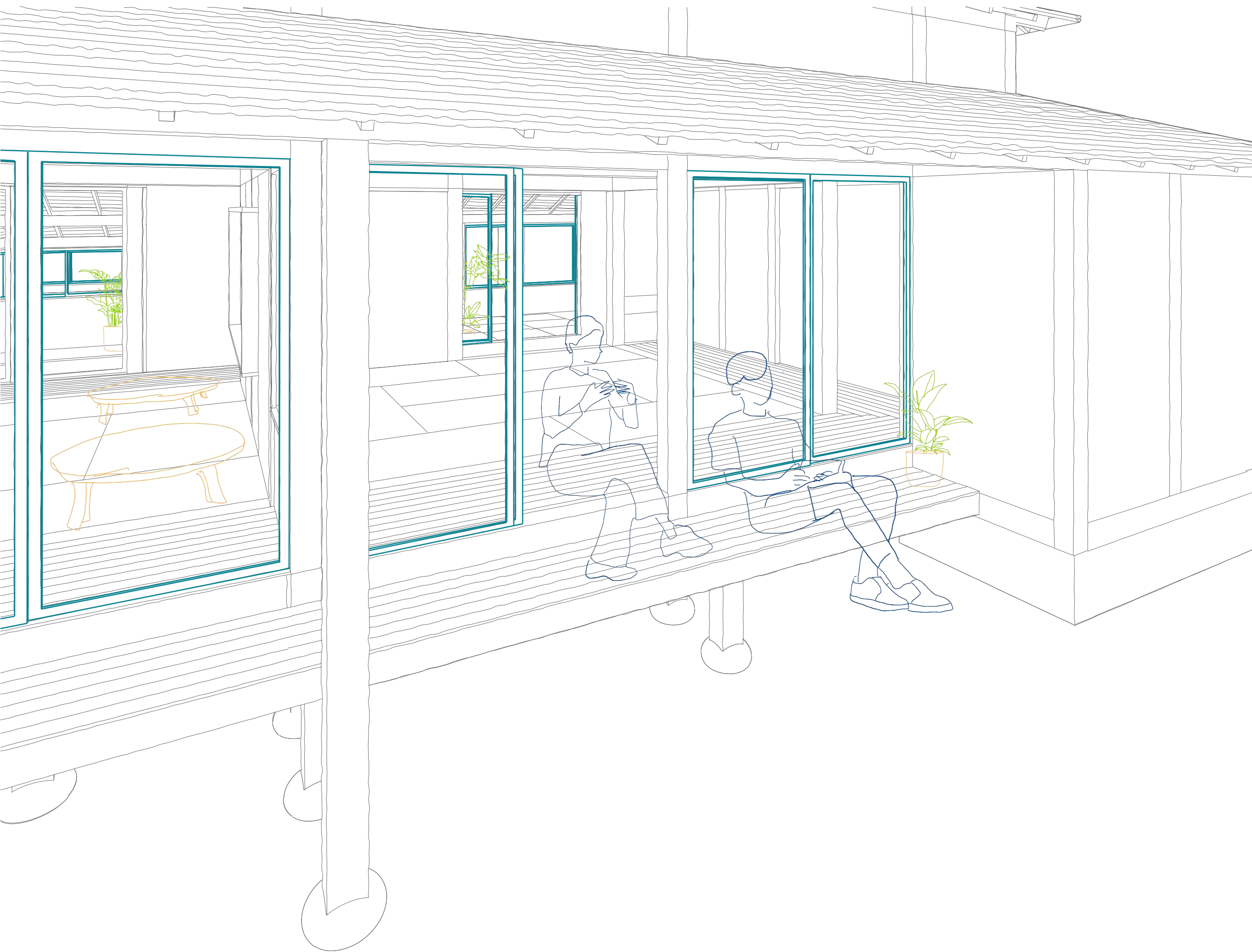




13:00-/Lunch time-昼下がり

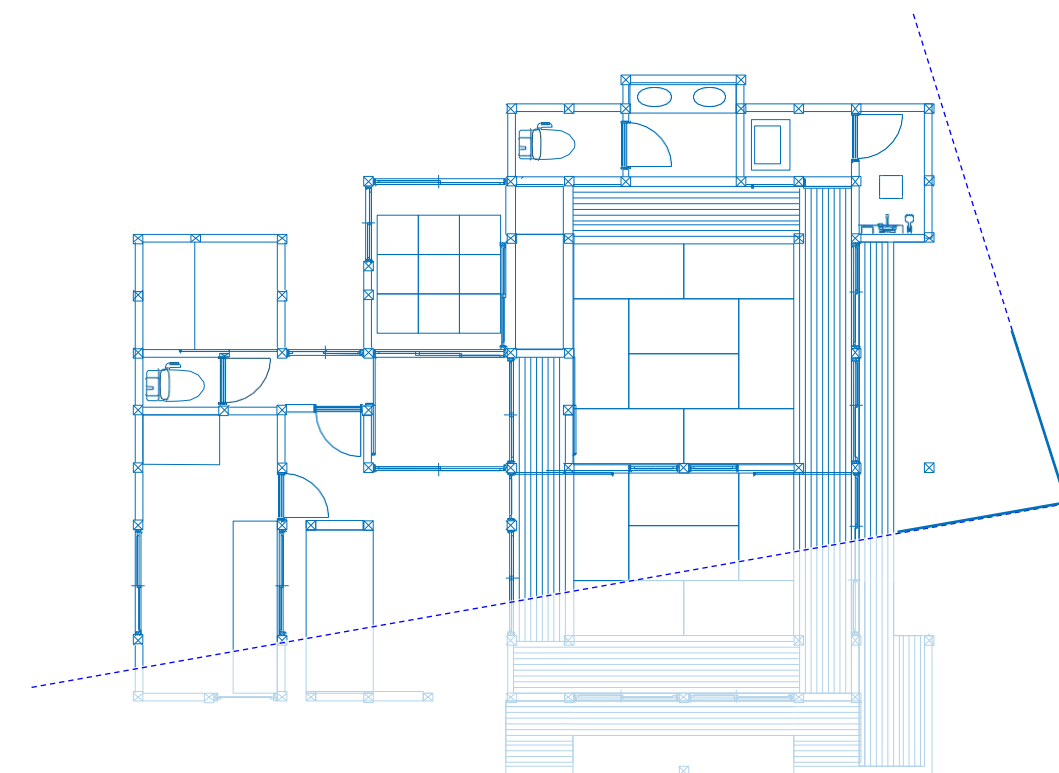
たまたま友人が食事に来ていた。縁側に腰を据えると  
小腹が空き、そのまま一緒に食事することにした。

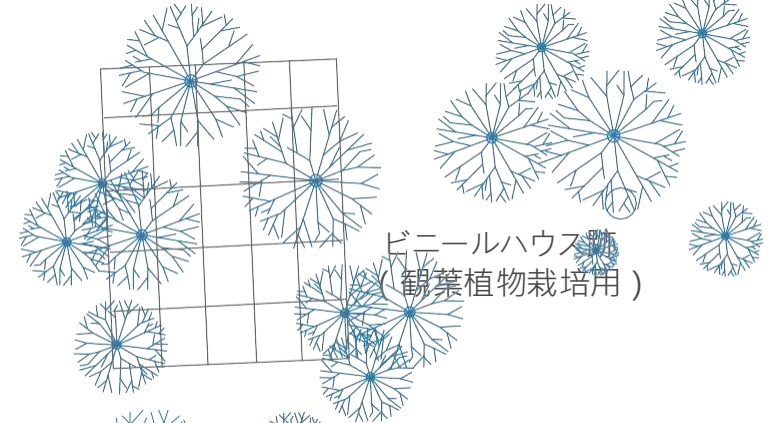




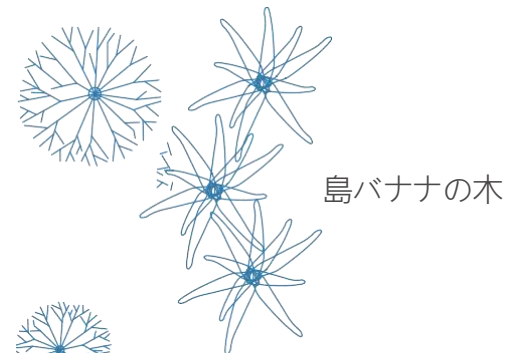
17:00-/Evning- 夕方

縁側での談話、軒によって日差しから守られたせいか、  
つつい長話をしてしまった。





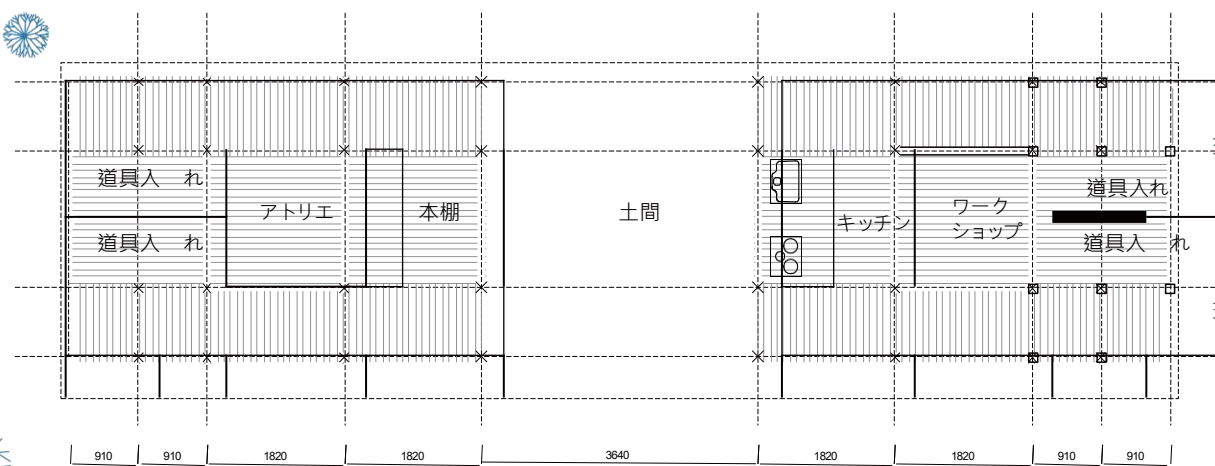
ディニールハウス  
(観葉植物栽培用)



島バナナの木

Semipublicな庭

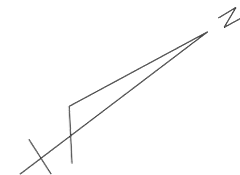
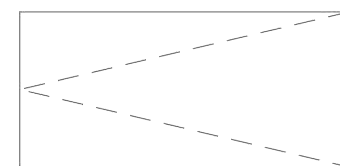
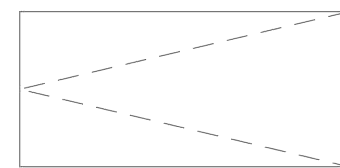
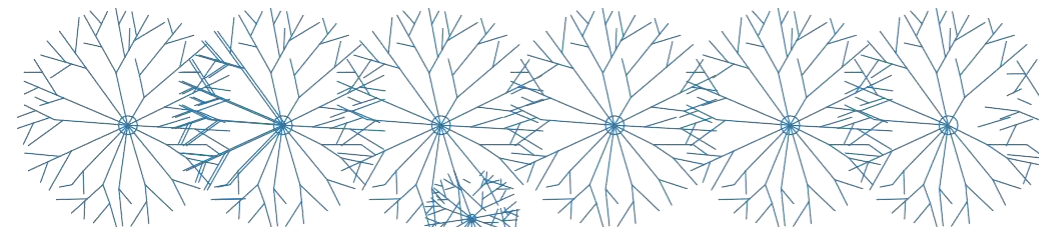
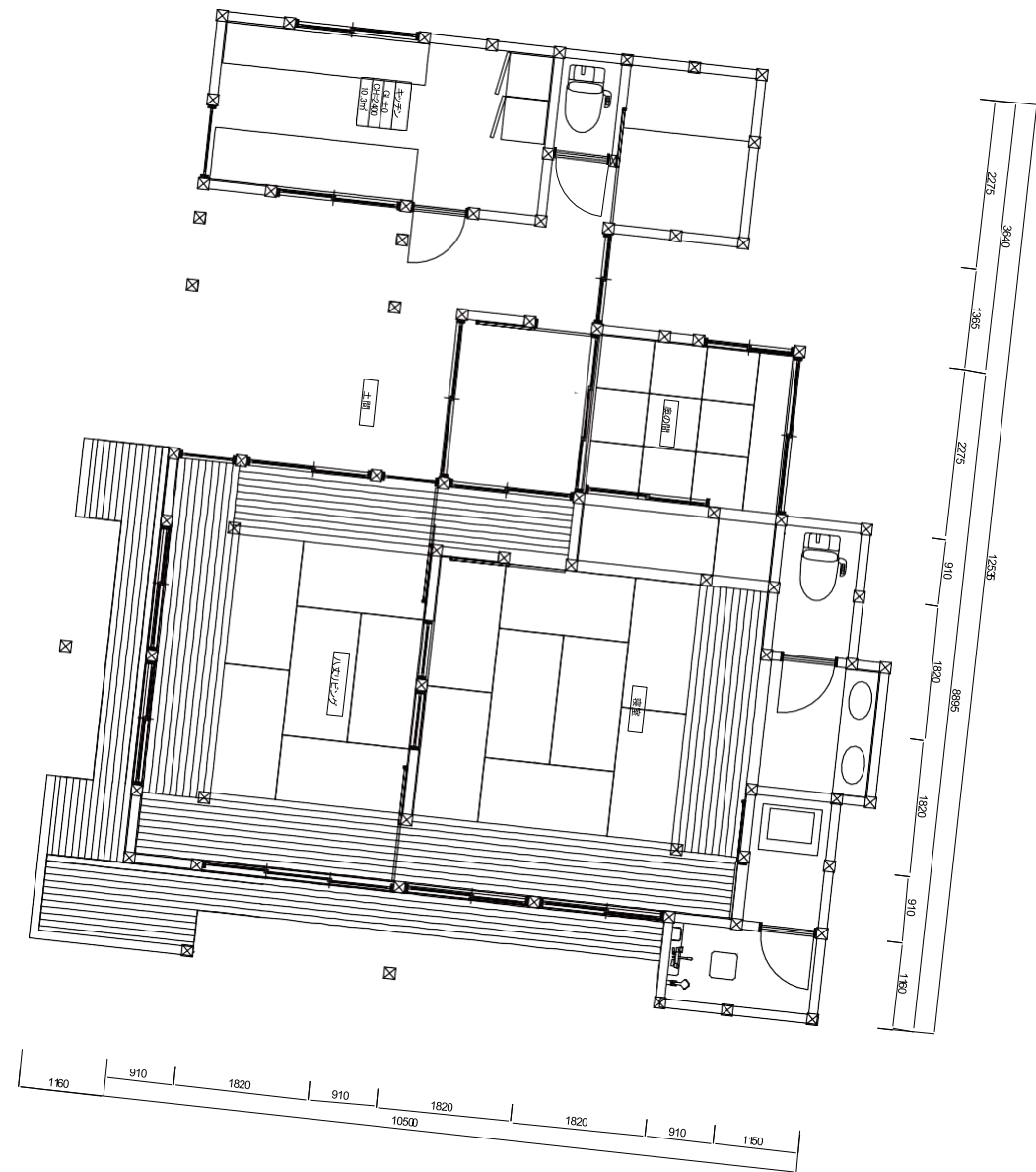
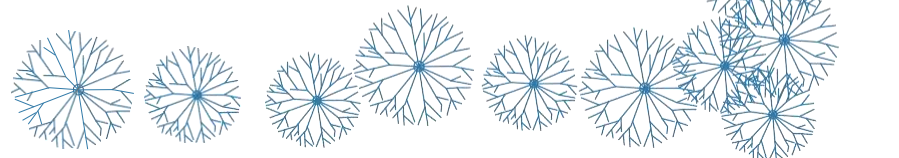
庭を区別して貸し出す(10-20㎡/人)

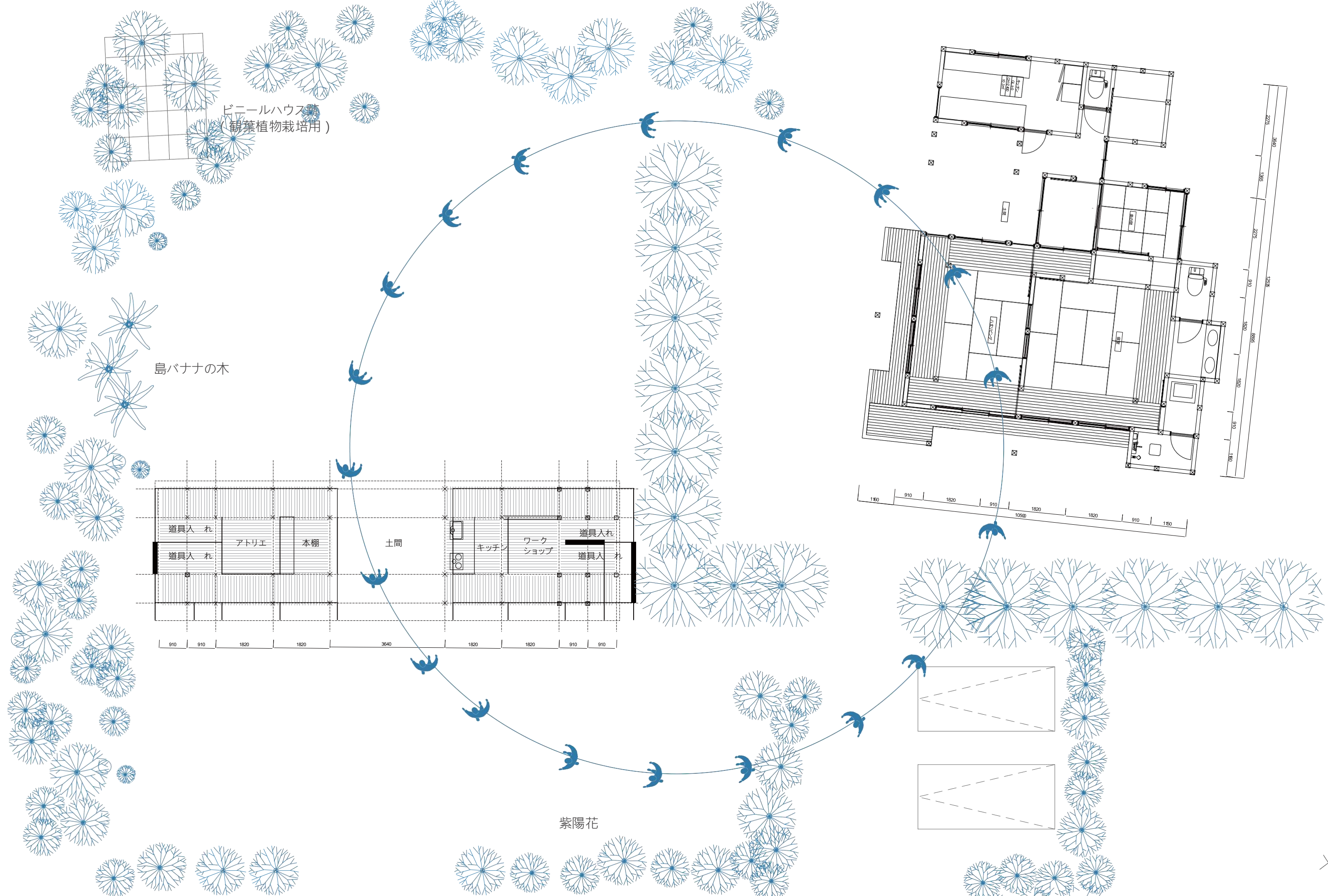


Publicな庭

庭を区別して貸し出す(10-20㎡/人)

紫陽花





ビニールハウス  
(観葉植物栽培用)

島バナナの木

道具入れ アトリエ 本棚 土間 キッチン ワークショップ 道具入れ 道具入れ

紫陽花

改修平面図